



ちようふピースメッセンジャー 2019

次世代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”として、被爆地である広島市へ派遣し、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指します。

令和元年度調布市中学生

広島平和派遣報告書

調布市 CHO FU TOKYO



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言



戦争がどれだけ悲惨なものか、
そして平和がどれだけ大切なか、
私の心に深く刻まれた3日間だった。

—ピースメッセンジャー感想文より—

はじめに

調布市では、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念のもと、毎年様々な平和祈念事業を実施しています。

令和元年度は、令和元年7月29日から31日まで市民の代表“ピースメッセンジャー”として、12人の中学生を被爆地である広島市へ派遣し、その成果を広く市民へ還元することを目指した「調布市中学生広島平和派遣」を実施しました。ピースメッセンジャーは、派遣期間中に様々な戦争関連施設を見学し、戦争体験者のお話を伺いました。最終日には、派遣期間中に学んだことを振り返りながら、平和への想いを短冊に込め、市民の方々に折っていただいた鶴とともに「原爆の子の像」へ献納しました。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが学んだことを一人でも多くの方にご覧いただき、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとなれば幸いです。

令和2年3月

調布市

目 次

はじめに

事業紹介 1

ちようふピースメッセンジャー2019 紹介 2

第1部 ピースメッセンジャーの感想文 3

第2部 活動報告

令和元年度ちようふピースメッセンジャー2019活動スケジュール 30

Part1 【学び】

申込者向け 事前説明会(調布市広島平和派遣親子説明会) 32

任命式／第1回 事前学習会 33

第2回 事前学習会 34

調布市広島平和派遣

行程表 35

1日目(7月29日) 36

2日目(7月30日) 38

3日目(7月31日) 40

「原爆の子の像」へ折り鶴献納 42

事後学習会 44

Part2 【発信】

青少年ステーション CAPS 報告会 46

市特別職への報告会 47

報告会の内容 48

平和祈念事業

折り鶴プロジェクト 53

調布サマーフェスティバル2019／原爆展／黙とうの呼びかけ 54

神田さち子ひとり芝居「帰ってきたおばあさん」／

劇団芸優座「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」 55

調布スクラムフェスティバルvol. 6／戦争体験映像記録 56

調布市広島平和派遣メッセージボード巡回展「つながる」 57

Part3 【自主活動】

涌井 董子(明治大学付属明治中学校1年) 60

松本 真紀(晃華学園中学校1年) 65

第3部 資料

平和首長会議 68

平和首長会議「平和なまち」絵画コンテスト 69

平和都市宣言(調布市非核平和都市宣言／調布市国際交流平和都市宣言) 70

その他平和祈念事業の紹介 71

おわりに 72

事業紹介

調布市広島平和派遣とは

次世代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”として、被爆地である広島市へ派遣し、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指します。

ピースメッセンジャーの役割

ピースメッセンジャーには、以下の役割があります。

1 市民の代表として調布市長から任命を受け、事前学習・事後学習を行う
ピースメッセンジャーは、7月7日（日）及び22日（月）の2回、事前学習会を実施しました。また、派遣後8月21日（水）に事後学習会を実施しました。

2 戦争・平和に関する現地施設の見学等や折り鶴を献納する

7月29日（月）から31日（水）まで、現地施設の見学や被爆体験者のお話を伺いました。また、最終日の7月31日（水）に市民の方に折っていただいた折り鶴を「原爆の子の像」へ献納しました。

3 発信する

派遣期間中に学んだことをまとめたメッセージボードを作成し、イベントでの展示、来場者との意見交換、報告会及び公共施設での「メッセージボード巡回展」を通して市民の方へ、平和への想いを発信しました。

— イベントでの展示及び来場者との意見交換 —

調布サマーフェスティバル2019

原爆展

神田さち子ひとり芝居「帰ってきたおばあさん」

劇団芸優座「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」

調布スクラムフェスティバルvol. 6

— 報告会 —

青少年ステーションCAPS報告会

市特別職への報告会

— メッセージボード巡回展「つながる」 —

郷土博物館

文化会館たづくり 11階みんなの広場、1階ロビー

市民活動支援センター えんがわ

北部公民館

ちようふピースメッセンジャー2019 紹介

市内在住・在学の中学生12人を“ちようふピースメッセンジャー2019”として広島市へ派遣しました。

派遣後は、学んだことを市民の方へ発信しました。



岩月 莉々 (いわつき りり) 調布市立第五中学校 (3年)

小笠原 直子 (おがさわら なおこ) 調布市立第六中学校 (2年)

橘 周子 (たちばな しゅうこ) 調布市立神代中学校 (2年)

中村 月咲 (なかむら つかさ) 鷗友学園女子中学校 (1年)

林 秋里咲 (はやし ありさ) 女子学院中学校 (2年)

樋口 杏 (ひぐち あん) 桐朋女子中学校 (3年)

福澤 優 (ふくざわ こころ) 調布市立第七中学校 (2年)

福島 帆高 (ふくしま ほだか) ドルトン東京学園中等部 (1年)

福村 麻人 (ふくむら あさと) 調布市立第三中学校 (1年)

松本 真紀 (まつもと まき) 晃華学園中学校 (1年)

吉田 幸志朗 (よしだ こうしろう) 調布市立神代中学校 (1年)

涌井 董子 (わくい とうこ) 明治大学付属明治中学校 (1年)

五十音順

第 | 部

ピースメッセンジャーの 感想文

広島平和派遣についてまとめた「感想文」と派遣前・派遣後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。



知ることと、最良の選択

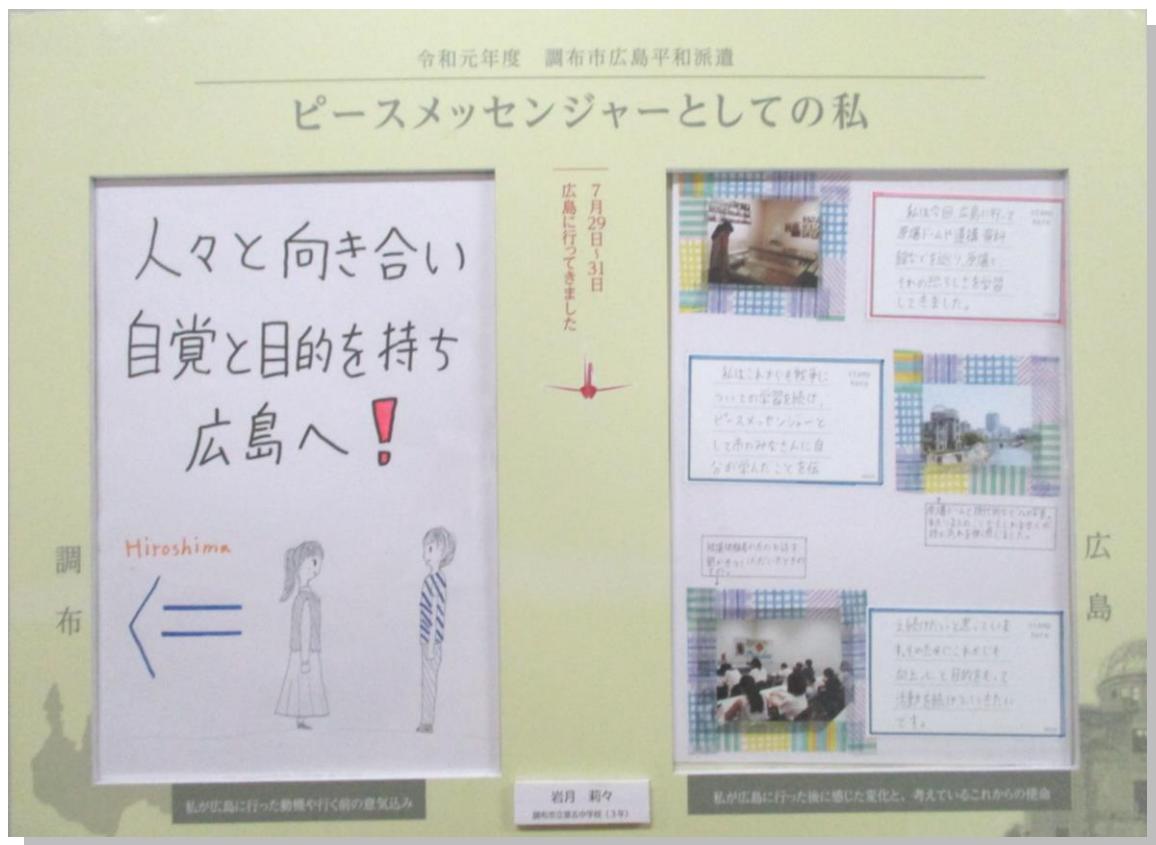
岩月 莉々

私が広島平和派遣に応募した理由は、実際に原子爆弾を落とされた場所へ赴き、そのことに対する理解を深めたかったからです。私は以前から歴史に興味があり、それに関する本をよく読んでいました。私は文章だけでも十分物事を知れるのだと思いひたすらに文字から情報を得ていましたが、多くの本を読んでいくうちにその考えは変わりました。私が読んだ本は事実を淡々と綴った感情のないものから当時を生きた方の証言のある人々の感情を強調したものまで様々でしたが、どれを読んでも「現実感」というものを感じられなかったのです。同じ土地でも当時の景色からは大きく変わり、人々も戦争を体験したことのない世代が多くなりました。ここまで変わってしまったのでは確かにそれが本当にあったこ

とだと知っていても、実感をもてないことは珍しくはないかもしれません。そこで私は遠くから見ているだけではなく、その地に行つてみたいと思うようになりました。当然広島だって数十年の時が経ち街は変わっていますが、それでも「過去にそのようなことが実際にあった場所」というのは大切なことだと感じています。

そんな考えがあって私は広島平和派遣に応募しました。広島に行ってからは原爆ドームや資料館などたくさんの場所を訪れました。原爆ドームは世界遺産に登録されていることもあってとても有名な建物で、勿論私も何回も写真で見たことがありました。その原爆ドームで私は自分の目で確かめることの大切さに改めて気づかされます。

ピースメッセンジャーとしての私



実際に目の前にある原爆ドームは写真で見るよりもずっと大きく言葉にできない雰囲気があります。資料館でも同じでした。被爆された方々の焼け焦げた遺品、ボロボロになった衣服、爆風で吹き飛んだ建物の残骸。どれもこれも私たちの日常からは切り離されたものでした。そのような非日常に自ら触れたそのとき、ほんの少しだけ「当時」の「現実」に触れたように思えました。似島では遺構巡りです。似島は自然溢れる島で、その景色は平和そのものです。そんな場所でかつて凄惨なことがあったとは教えられるまできっと気がつけないでしょう。似島には昔戦争から帰ってきた軍人の検査をする陸軍の検疫所がありました。そのため大量の被爆者が似島に運ばれてきたといいます。ここで多くの人が亡くなりま

した。

派遣を行った3日を通して私は多くのことを学びました。知ることは人を正しい道へ導くことのできる唯一の術だと思います。戦争に至るには過程というものがあり、結果としてなぜこうなったのか、簡単に説明できることではありません。本当に戦争を防ぎたいのならまず過去を振り返ってどうすることが最良の選択なのか、現実を見て考えることが最も大事だと思います。これからも知る、学ぶを続けていきたいです。



わたしが出来る事

小笠原
直子

私は、小学生の時広島の悲劇について少しだけふれた。その時は原子爆弾が投下された事やたくさんの人々が亡くなった事など主に事実についてふれた。でも今回の派遣を知って事実以外にも生き残った人の話や思いを知りたいと思った。

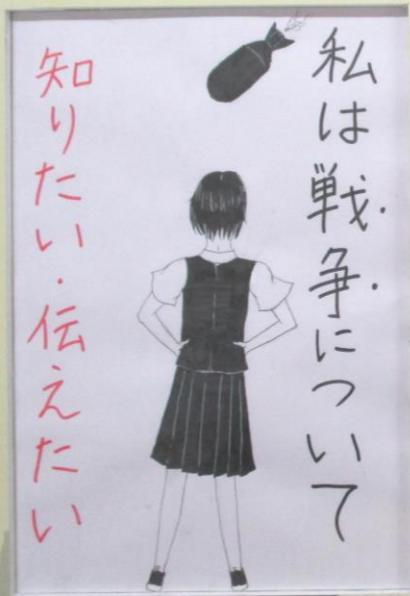
1日目は平和記念公園や平和記念資料館に行った。記念公園ではたくさんの人が信じられない程亡くなった事やここはまるで地獄のようだと教えてもらった。資料館では目を覆いたくなるような見た事のない傷や死体たくさんの人の言葉が残されていた。写真やただの文章なのに喉の奥が締め付けられるような感じだった。

2日目は似島に行った。似島ではたくさ

んの怪我人が運ばれて来たらしい。その人達は、水を求めていたが放射線で飲んだら死ぬと考えられていたためもらえなかった。その当時の人は、今の私達の身近ですぐに飲める水も飲めず苦しんでいたと知った。私は1番心に残った話がある。それはある少女の話だ。その子は麻酔をせず腕を切り落とし命が助かったという話だ。もし私だったら怖くてそんな事出来ないと思う。その少女の勇気はとてもすごいと思った。

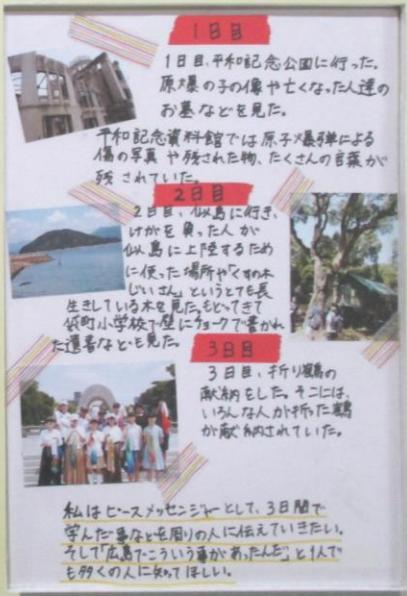
3日目は被爆体験者の話を聞いた。その人も家族が亡くなったらしい。他にも「被爆者とは結婚しない方が良い」など差別的な事もされていたらしい。被害者なのに周りから冷たい目で見られるのはひどいし、おかしい事だと感じた。また、平和記念公園に

ピースメッセンジャーとしての私



7月29日～31日
広島に行ってきたました

小笠原 直子
調布市立第六中学校（2年）



広島

調布

折り鶴献納もした。そこにはたくさんの折り鶴があった。こんなに広島のために折り鶴を折ってくれる人がいると知った。とてもキレイでたくさんの人の思いを感じられた。

私は、広島に来たのが初めてで、いろんな所に行けたりして楽しかったし、当時の人の気持ちも少しは知る事も出来た。最初は不安だったけどメンバーとも仲良くなれてすごく良い思い出になった。次は私がいろんな人にこの事を伝えていかなければいけないと思う。事実だけではなく、思い、気持ちなども知ってほしいと思った。



調布市立第六中学校（2年）



伝えたいこと

橘
周
子

私が今回の広島平和派遣に参加した理由は前回の作文にも書いた通り、長崎の原爆資料館や祖父の体験談などでした。しかし、実際に見てみて、強く思ったことがあります。それは、広島のこと、原爆のこと、若い世代にもっと知って欲しいということです。

まず、1番最初に印象に残ったのは、第1回勉強会で聞いた話です。語り部の方のお話によると、当時は中学生もろくに勉強できず学徒動員で工場に行き、危険な作業をしていたそうです。私達も生まれる時代が違えばそうなっていたと考えると、これは私達が今、真剣に向き合わなくてはならない問題なのだと思います。

その思いを抱えて広島に行き、最初に見学したのは原爆資料館でした。様々な展示物の中に、遺品とそのエピソードがあり、それがとても記憶に残っています。原爆が落ちる直前まで広島の人々は普通の生活を送っていたのです。遺品の中には、10歳にもならない子ども達のものもたくさんあり、ご両親の思いを考えると、やるせない気持ちになりました。

翌日、見学しに行ったのは似島です。そもそも似島自体を知らなかった私は、被害者がこの島に1万人以上も逃げてきたと聞き、とても驚きました。そして、逃げてきた人々の看病をしたのは島にいた少年でした。手記によると、たくさんの人の死体の処理など、辛い仕事もあったようです。中学生

ピースメッセンジャーとしての私

Q, 広島へ行きたい理由

**A, 長崎 → 行った
広島 → 行ったことない**

・戦後74年目
被爆された方の話を直に
聞ける機会がどんどん
減っている

広島で感じたことを
ガールスカウト学校
などで伝えたい

神代中2年 橋 周子

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日-31日
広島に行つてきました

1. 体験したこと

平和記念公園 見学
原爆資料館

派遣中
被爆体験者講話

写真や展示物で、そこに暮らして
いた人達の日常が一度では
わざわざ見てきた。
自分に置きかえてみると、怖い。

自分の大切な家族や友人をたくさん
失い、その多くも核爆弾で殺された
人に差別に苦しんだ。

2. 派遣後

平和の尊さはすこし受け継いで、かなづかはねらない
戦争を知らない私達の世代にも懸念していきたい
例の学校ガールスカウト会
CAPS報告会では積一杯体験を伝えたい。

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの機会

がそんなことをする世の中は2度と来てほしくないと強く思いました。

最終日、私達は折り鶴を納めに行きました。近づいてみると、そこには既にたくさんの鶴が納められており、平和に対する思いは皆1つのだと感じました。

この3日間を通して私は、一度平穏が崩れてしまえば、自分も74年前の人々と同じ目にあうかもしれない、と、原爆や戦争の身近さを感じました。そして同時に、この平和は私達が支えていかないといけないものだ、ということを、ぜひ同世代の人にも理解して欲しいと思いました。

最後に、今回私がこのような多くのこと

を学べたのは、両親や市の方々の支援あってのことです。今後私が平和を訴える活動に取り組むことによってお礼ができたら、と思います。本当にありがとうございました。



平和を伝えることの大切さ

中村
月咲

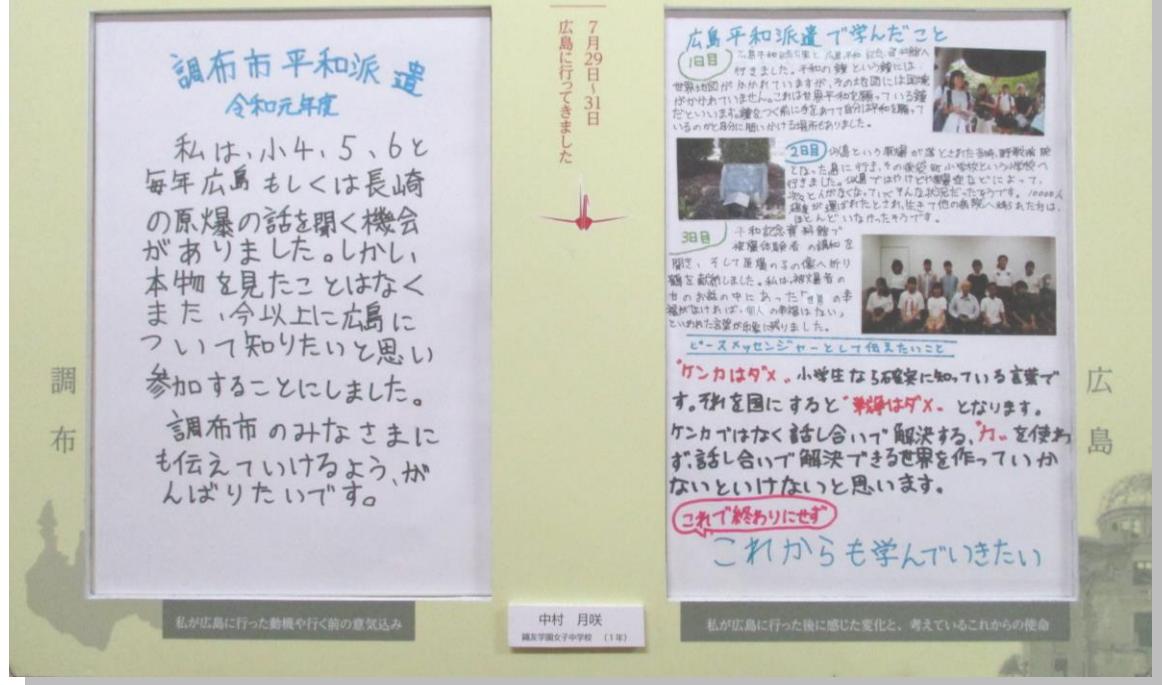
私たちちは調布市のピースメッセンジャーとして3日間広島へ派遣されました。

1日目は、平和記念公園と平和記念資料館に行きました。平和記念公園では、平和の鐘や、平和の子の像など、平和を願い、原爆によって亡くなった方をとむらうものを見て回りました。私は平和の鐘に興味を持ちました。この鐘には世界地図が描かれているのですが、それには国境がありません。これは世界が1つになり、みんなが平和になるようにという願いが込められているそうです。平和記念資料館では、被爆直後の広島の様子や、被爆者の方々の遺品などが展示されていました。本館入口近くの展示では、CGによって原爆が落とされたときの様子が現されていて、一瞬で全てがなくなった様子が分かりました。

2日目は、似島と袋町小学校へ行きました。似島は原爆が落とされた当時、広島市内から多くの被爆者の方が運ばれ、野戦病院となった島です。似島では1万人に及ぶ被爆者が被爆後20日間で運ばれました。やけどや原爆症などにより、亡くなった方も多く、生きて似島を後にすることができる方は、2千人から3千人だと言われています。袋町小学校では灰がつき黒くなったかべに、白いチョークを使って小学校に通っていた生徒の状況や、親の現在住んでいる場所などをかいて、掲示板のように使っていたそうです。私は、これに1人1人の安否を書いていた先生達に驚かされました。

3日目は、被爆体験者の講話を聞き、原爆の子の像へ折り鶴を献納しました。被爆体験者の講話では、当時どんなところでど

ピースメッセンジャーとしての私



んな被害にあったのかということをくわしく話してくださいました。

この3日間で私の印象に残った言葉が2つあります。

1つ目は、「平和は1つの世代が作ったとしても、次の世代が平和でなくていいと思ったらなくなってしまう。次の世代もその次の世代も、みんなが平和であってほしい、その気持ちを糸をつむぐようにしてつないできた」という言葉です。私はこの言葉に確かにそうだなと思いました。平和が当たり前ということが、100年、200年と続けば、だんだん広島で起きた原爆が忘れられてしまうかもしれません。そしたら、平和である必要があるのか、という考えもでてくると思います。そうならないためにも、平和の大切さを伝えていかなければいけないと思

います。

2つ目は、「世界全体が幸福にならなければ、個人の幸福はありえない」という言葉です。世界各地では紛争などにより、自分の国に戻れないという人々もたくさんいます。そういう人達にとっての幸福は日本に住む私たちが当たり前に手に入れており、考えもしないようなことだと思います。

他者の考えも尊重し、力にうつたえずに解決する世にならなければいけないと思いました。



広島での衝撃

林
秋里咲

私が調布市の広島平和派遣事業に参加を希望したのは、ピースメッセンジャーとして、戦争、原爆についての話を学び伝える活動に興味があったからだ。そして、実際に現地を訪れて、原爆についての講話を聞いたり、原爆ドーム、平和記念公園、広島平和記念資料館、似島といった関連施設において、その実像を目にする度、「自分は何も知らない」ということに、がく然とすることになった。

一体私は何を伝えればよいのだろう。そして、私のこの衝動的な思い、「リアルな戦争というものを知らない」ということをどう伝えればよいのだろう。

1945年8月6日8時15分。広島で一体何が起こっていたのか。言葉、知識では知っていても、広島平和記念館で見た様々な

展示は、あまりにも無惨、残酷で胸をしめつけられるものであった。焦土、廃墟となつた広島の様子がそこにはあった。

原爆は強烈な熱線と放射線と、超高压の爆風を引き起こした。それによって人々の命は一瞬で奪われた。少し離れた所にいる人でも息絶えたり、ひどい火傷を負った人も多かった。木造の住宅は全壊した住宅が多かったという。

平和記念資料館には、原爆で被災してしまった人々のボロボロになった衣服や、放射線によって髪の毛が抜けてしまった少女、亡くなった方の写真があった。見るに耐えない原爆遺留物が多かった。原子爆弾が落とされるその瞬間まで、その制服を着た少年少女は普段の生活、日常があったはずだ。それは一瞬にして打ち砕かれた。

ピースメッセンジャーとしての私

「戦争はしてはいけない」
誰もが分かっていると思う。
しかしそれなら何故今尚
世界では紛争などが続いて
いるのだろうか。
戦争は何故いけないのか。
平和とは何なのか。
口先だけではなく、
内面的に考えてみたい。

調布

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日
広島に行つきました

林 秋里咲
女子学院中学校（2年）

和達は、広島で、原爆についてや、平和記念資料館、似鳥、原爆の子の像などに行つた。



平和記念資料館へ行き、火傷を負つてしまつた、火傷かケロドになつてしまつた方などの実際の写真などを見た。その写真からは当時の状況が伝わってきて、目を見つめたりしたくなつたのだつた。

本当にあつたことなのだ、と思うにはあまり衝撃的

なものでは、た。

似鳥に行つた際、原爆が投下された後、似鳥かどうなつていたか、などの話を聞いた。

似鳥は原爆が投下された後、被爆者たる人、腕のない人、足のない人など、かどり人運びてきたといつた。そんな被爆者を運び、追つなくなつたために、

そんな被爆者を運ぶ車が、どうやら、

悲惨なものだったのか、どうことか。

「ピースメッセンジャー」として伝えていきたい。

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

広島

女子学院中学校（2年）

その思いと魂はどこへ行ってしまったのだろうか。ぼろぼろになった制服を見ながらもっと生きたかったんだろうな。悔しかったんだろうな。と私は思った。

広島では、被爆者の國分良徳さんの講話をお聞きした。旧制中学校4年生であった16才の時、朝、動員先の軍事工場へ出かけようとした時に、1.8km地点で被爆した。國分さんは9人家族だった。しかし、原爆によって母、弟、妹を亡くした。國分さんも、原爆の爆風によって胸の辺りに破片がささったが、胸ポケットに定期入れがあったので、命が助かったという。國分さんの母は家の下敷きになってしまっていた。母の体を出そうとしたが、原爆による熱線で火事がおこり、火がせまり来る中、逃げるより他に選択肢がなく、見殺しにしなくてはならなかつたという。どれだけつらい気持ちだつ

ただろうと思うといったたまれなくなった。一家族をとっても、生き残った方と亡くなつた方がいるという事実。私は原爆のとても非情な、無差別性を感じた。

罪のない沢山の人々が命を落とさなくてはいけなかつた矛盾。今生かされている私のこの命を、一生懸命に生きたいと思った。そして私はこの夏の衝撃を絶対に忘れない。



他人事とは思わず

樋口
杏

私は今回調布市民代表として広島に派遣させて頂きました。戦争については2年ほど前から興味があり、自ら広島に行きたいと親にねだったこともあります。前回行ったときは改装中ということもあり原爆資料館の一部しか見ることができませんでした。その一部の他の展示を見たい、学びたいということが1番の申し込みをした理由でした。

しかし、広島に着いてからの生活の中で学べる充実した話や経験は悲惨なものでした。平和の鐘や原爆ドームを観光として見るのとはまた違った感覚でした。私が説明を聞いている間も、地元の人か観光客か定かではないが、写真を数枚撮り何かを考えるような顔1つせずに去っていきます。

「他にも慰霊碑はあるのにどうして?」とそのとき思いました。しかし一昨年の自分を思い返してみると原爆ドームを見て同じようなことをしていた気がします。そこで私は気がつきました。この人々は戦争について深く考えてここにきている人は少ないということを。他にも見るべき場所はあるはずなのにそれを見ていないと気づかないということはそういうことなのではないか、と思いました。

私自身1番印象に残ったものは多々あるが、その中でも特に國分良徳さんのお話に心を痛めました。その話を聞いて、今同じことが起きたら、と身震いしてしまいました。國分さんが16歳のときに経験したと聞いたときも今の自分と年齢が近く、そのときに



象徴

福澤 優

今回、私は広島へ調布市の代表として、
派遣された。

真夏の広島は、「暑い」どころのさわぎではなかった。立っているだけで、体中から汗が噴き出したりだ。だが、今は休けい所として、あらゆる所にクーラーの効いたお店や、コンビニがある。こんな便利で、快適な社会になった現代。ほんの数十年までは、多くの人が血を流し、家族のことを想ったのだろう。今じゃ、その歴史は資料館等に納められている。それどころか、一部では「原爆ドーム」が、観光スポットになりつつあるらしい。確かに「原爆ドーム」は、広島や戦争の象徴とも言える。だが、観光スポットではないと、私は思う。言うなれば、「遺産」とでもいうのだろうか。歴史が残し

た、遺産。それが、自分にとって、一番しつくりくるのだ。

私は、8月12日に行われた、神田さち子さんの芝居^(※)を見て考えた。日本から見れば、さも日本は被害者だが、他国から見ると、日本は加害者でもある。韓国を攻撃し、更にアメリカの領土すらも攻撃した。これは、日本がふっかけたケンカを、双方は買つただけではないだろうか？だがやはり、個人同士の揉め事=ケンカになるが、国同士ではケンカ=戦争になってしまう。そうなれば、戦うのは一体誰か。それは、国民だ。國のお偉いさんではなく、国民。そこに拒否権なんてなく、人権もないに等しい。「民さえ生きれば、国は死ない」と、私はどこかで聞いた事がある。国を造っているのは、王様

ピースメッセンジャーとしての私

『平和』が当たり前になってしまった、戦争の悲さんさや、命の尊さを忘れてしまっている人達が少なからず居る。それは、今を生きる私達にも当てはまる事だろう。私は、忘れてしまった人達へ戦争を知らない人達へ、『平和』の大切さを伝えたい。

私が広島に行った動機や行く前の意識込み

7月29日-31日
広島にいらっしゃいました

1. 原爆の子の像
原爆ドーム
平和記念公園 etc.
(銀行の窓口 オーフン!)

2. フェリーで『二島』へ。
島の歴史、戦時中、状態を聴取。
午後は島の建物廻り。
広島へ戻り、『立教町人學校』へ。
NINOSHIMA

3. 原爆の子の像へ祈り奉納。
何千万羽のカラーフラワー一つに。

End,

私はこれまで多くの人々へ
平和の尊さ、命の尊さを伝えたい。
そして、世界中の人に
想ふを届けたい。

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの大命

調布

福澤 優
調布市立第七中学校（2年）

広島

の様な偉い人ではなく、国民だ。国民という土台を無くしてしまえば、城は崩壊する。支えてくれるものが無いのだから。けれど、私達一人では、世界に何かを伝えることは出来ない。その役目を担うのが、国のトップである人達。つまりはどちらが無くなってしまう駄目なのである。

つい最近では、ある政治家が「戦争をするしかない」と、ニュースで取り上げられていた。それを聞いた私は、頭に血がのぼった。「なんて無責任なのだろうか」と。今の時代もしかしたら、たった一つの何気ない言葉で戦争が起きてしまうかもしれない。

他には北朝鮮の、核ミサイルだろう。あれは正に、「戦争の象徴」だ。全ての事を、武

力で制圧するのか?争いが、一体何を生んだのだろうか。悲しみや、絶望しか生まなかつたはずだ。そんな世の中に、またなつて欲しくない。そのためにも、国同士の問題や、世界で起きている紛争の課題を解決しなくてはならない。そしていつか、核という存在がゼロになり、それが「平和の象徴」になれば良いと願う。

(※)

ピースメッセンジャーの活動の一環として、令和元年8月12日（月）に神田さち子ひとり芝居「帰ってきたおばあさん」を観劇しました。
(本報告書55ページ参照)



広島派遣を終えて

僕が今回の広島派遣で感じた事は3つあります。

一つ目は、原爆の悲惨さです。似島の自然の家で原爆が投下されてから、街が被爆するまでをCGでシミュレーションした映像を観ました。エノラ・ゲイ号のリトル・ボーイが投下され、上空約600メートルで爆発して直径4キロメートルが一瞬で破壊されました。被爆し、即死した人は階段に黒い影だけ残して消えました。かろうじて生き残った人は皮膚がただれる程の大きな火傷を負って、「水をくれ、水をくれ。」と言い残して死んでいきました。僕にはこのように死んでいった人の気持ちはどうてい測り知れません。ただただ涙がでました。

2つ目は、広島に原爆が投下された理由に衝撃を受けたことです。理由の1つに、広島の地形が原爆の威力を確かめるための実験場所に適していた事があげられます。広島には、軍需基地や住宅があり、原爆の威力が最大に発揮されるので成果が観測しやすいと思われたからだそうです。また、日本は降伏するぐらいなら死ぬべきだと教育されていたため、なかなか降伏せず、戦争が長期に渡る事をさけるために原爆が投下されたとも言われています。しかし、どんな理由があろうと決してこのような残酷な事を起こしてはいけないと思いました。

最後に今を生きる僕たちがこれからできる事を考えました。国同士の争いは国同士

ピースメッセンジャーとしての私

僕がこの広島派遣に行こう
と思った理由は、僕は終戦記念日の8月15日生まれです。なので、二度と
このような事を起こさないように生きる事の方
をと思い参加しました。
派遣に行く前の意気込みは、僕は
この派遣を通じて原爆の事を多く知り
そこでこうなった事を起こさないようにしておる
いいのかを教わったなと思いま

7月29日-31日
広島に行つてきました

1日目は平和記念公園にて、様々な慰霊碑
に行つてどんな慰靈碑を開きました。



二日目は、ソメイ島で原爆が投下された爆心地
街の破壊壊さるまでのシミュレーション動画を見
ました。これで原爆がどれだけ悲惨なものかを
体験しました。

セスクリーンにて
僕はこれからセスクリーンとして
平和のために何ができるかを僕の家族や友達に伝えて
いきたいと思いま

福島 帆高

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

福島 帆高

ドルトン東京学園中等部（1年）

広島



調布



の関係が悪くなり起こります。これは人間関係でも言えることなので、まず人間関係が悪くなった原因を探ることで修復する事ができると思います。そして、互いを思いやつて生きていければ争いごとはなくなるのではないかでしょうか。また、平和の尊さを僕たちの次世代へ語りついでいく事も大切です。これから生まれてくる僕の子供や孫にこの事を伝えることで世界の平和をつないでいく事ができるのだと思います。

僕はこの経験を通して、たくさんのことを感じ、考え、学びました。過去のつらい経験を決して忘れず、後世に語りつき、互いに思いやりをもって生きていけば必ずこの世界を平和にする事ができると思います。最初は小さな一歩からでも今できる事

を各々がし続けていく事で世界が少しずつ変わっていけるはずです。いつか争いのない平和な世界を目指して頑張っていきたいと思います。

ドルトン東京学園中等部（一年）



広島へ行って

福
村
麻
人

7月29日から31日までの2泊3日、調布市が企画した「調布市広島平和派遣」に参加し、広島で「平和」について学ぶ機会をいただきました。

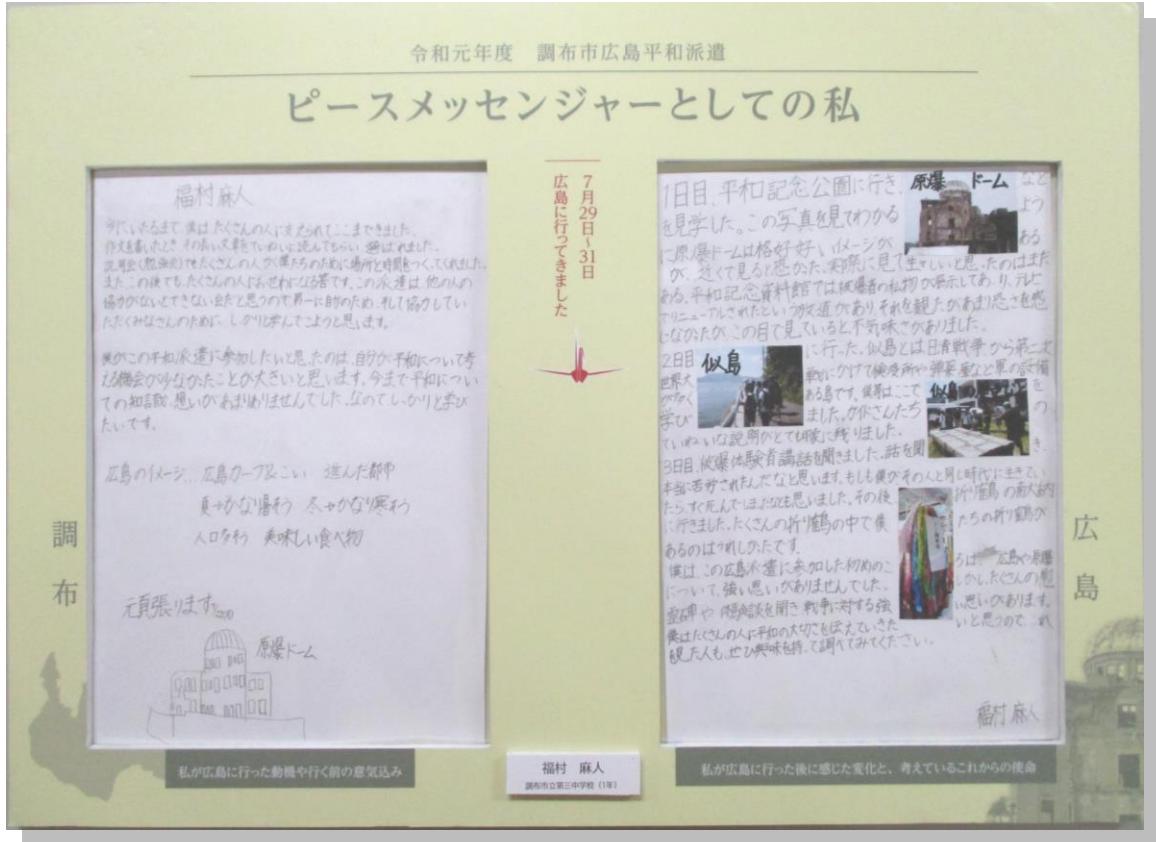
もともと僕は戦争が嫌いです。学校等で戦争について学習はしてきましたが、戦争について深く知る事に恐怖を感じていたのでわざわざそれ以上の知識を得ようとは思いませんでした。しかし、調布市のこの企画を聞いたとき、もっと関心を深めようと思って応募したのです。

第1日目。羽田空港から飛行機で約1時間半、広島空港に到着した後、バスに揺られて着いた場所は、原爆ドームでした。1日目はここで平和学習を行いました。原爆ドーム等、平和記念公園を中心に見た後、平和記念館に入りました。平和記念館には、被

爆された、たくさんの方々の私物などが展示してありました。展示物である、弁当箱やベルトなどを見ていると、当時の惨状をまのあたりにしたようでした。

2日目。この日は街を出て、似島(にのしま)という島に着きました。ここはもともと、日清戦争から第二次世界大戦にかけて、検疫所や馬匹(ばひつ)検疫所が造られた軍の島でした。終戦まで検疫の仕事は続けられたが、戦局が悪くなるにつれて帰還した兵が少なくなり、病院としての働きが多くなったのです。しかし、1945年8月6日。広島に原子爆弾が投下されて、似島は臨時野戦病院になります。約5千人分の医薬品がありましたが、それを遙かに上回る約1万人の負傷者が来たそうです。「皮膚ははがれ、風すらも痛む。そして、水を飲めない患者たちはバタバタと死んでゆく。」僕は

ピースメッセンジャーとしての私



この話を直に聞き、ぞっとしました。こんな苦痛は僕には耐えることができません。

3日目。被爆体験者講話を聞きました。お話をしてくれた國分さんは原爆で家族4人を失いました。当時はまさに、生き地獄だと思いました。生活を続けるのも大変なのに、一生懸命生きる姿に対し、たくましいなと思いました。その後、折り鶴献納をしました。たくさんの折り鶴があって、その一つ一つが被爆者のことを想って折られたと思うと、こういう積み重ねが大切なのだと思いました。

調布に帰ってきて、改めて「僕等は調布代表として広島に行ってきたのだ」と思いました。広島県民のみなさんが僕等に対し優しくしてくれた様に、僕等が調布市民

に対してできる事は何でしょうか。僕は、広島で学んだことを、「本気」で伝えることだと思います。僕は今回、調布市民代表として広島に行ってきました。しかし、僕に年表や人物を聞くなら、教科書を開いたほうが正確なはずです。でも僕は実際に見たり、聞いたりしてきました。その様な、教科書に載っていないことを伝えたいと思っています。



広島に訪れて考えたこと

松本
真紀

広島に行く前は、正直ただ原爆や戦争はダメだと思っているだけでした。しかし、広島で資料館や体験者のお話を聞くつれて私が思っていた原爆の悲惨さやむごさを何百倍も超えてきました。原爆についての知らなかつた事も多かったです。原爆によって多くの人の命だけでなく、生きる気力を無くした人や大切な家族や友人を亡くして苦しんできた方々も多くいることを知りました。

広島に行って特に気になったのは似島のことです。似島は広島本土と違い原爆の影響は少なかったですが、原爆によって火傷をした人や傷を負った人の看病のために使われました。私はこの似島の存在を知りませんでした。似島では丁寧に埋葬することができず大量の遺体を埋めたそうです。人工的に作られた、たった1つの兵器で

一瞬にして多くの人が身元もわからないくらいの状態で亡くなってしまった現実を知り、言葉に出来ないくらい悲しくなりました。

平和記念公園では中でも市民が書いた絵や原爆が投下した直後の写真が心に残っています。見る前は、遠い世界の出来事であり身近に感じられなかった所もあったのですが、原爆投下前後の原爆ドームや町の様子を見比べたり、展示を見ているうちに、これはここで現実におこったと目の前にせまってきた。他にも全身に火傷を負った人の顔や死の斑点ができた兵隊の絶望に満ちた顔。写真の他にも被爆者の描いた当時の絵、亡くなった方々の遺品とエピソードを見て心がしめつけられました。

まだ広島の土の下にはがれきがたくさん

ピースメッセンジャーとしての私

今回の派遣で多くの人に戦争の悲惨さを伝えたいです。また、「平和とは何か」「戦争とはどのようなものか」という事を自分なりに考える機会にしたいです。広島では人々の想いをしっかり感じたいです。

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日-31日
広島に行きました松本 真紀
晃華学園中学校（1年）

<体験した事>



1日目、初日は平和記念公園でガイドさんにいろいろな事を教わりました。例えは、平和の鐘について、側面に国境の無い世界地図があり、あらとうことや、鐘の音が世界中の水の中に流れ、原爆で傷を負いました。人の傷をいやすくするためにあることなど、学びました。

2日目は、広島市に行きました。広島は原爆の被害はありませんでした。

3日目は、原爆で被爆した方の講話を聞きました。とても感動的で、こんなことが出来て、あたたかく、静かになりました。

<ピース メッセンジャーとして>

私は3日間で原爆の言葉にならぬ経験をしました。原爆においてたくさんの命が奪われました。被爆してしまった方の悲しさを知りました。これ知った事をなるべく多くの人に伝えたいと思いました。また、興味を持っていた人々にも分かりやすく伝えたいです。



私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれから挑む

調
布広
島

つまっています。戦争前は普通の幸せな生活があり、戦争によってそれがこわされ体も心も傷ついて、でも必死で今まで生きてきた人達。広島派遣中、私はたくさんの想いの上を歩いているのだなと思いました。

今のような平和な風景を焼け野原に、たくさんの死体、がれきの山など残酷な風景にしたくないと思いました。そのために私達のような世代も次の世代に伝えないといけないと思います。

今回広島を訪れて、原爆で傷を負った人も残された人もずっとつらい思いをかかえて生きてきたことを知りました。経験者が少なくなっているからこそ、平和に対する意識が重要になってくると思います。

たくさんの方々が苦しむ原爆のことを伝

えるために、また今の日本のような平和を保つためには私達一人一人が戦争や原爆の恐ろしさや悲しみを、まず興味を持って知っていかなければいけないと思います。

家では、私の広島の派遣を機に似島の特集や戦争に関するテレビや展示を見るようになりました。また、平和について家族で話し合うようになりました。今度は友達や学校、周りの人々にもこの事を伝えていくことがピースメッセンジャーである私の役目だと思います。

晃華学園中学校（一年）



僕が広島で学んだこと

吉田幸志朗

僕が広島に行って学んだこと、思ったことは戦争によって軽々しくうばわれた、決して戻ることのない命、そして広島でおきた惨劇を決して忘れてはいけないと思いました。

中でも僕が1番印象に残ったことは、似島へ運びこまれてちゃんとした手当てをうけることのできなかった人達についてのことです。体全体に、大火傷をおったのに、薬が足りなくて、薬を代用したものをぬるほかなく、手当ても無事に受けられなかったと聞きました。また、麻酔なしで手や足の切断手術をする人の希望をつのると1人の少女が手術を希望したそうです。手術は行われましたがそのときのひどい断末魔のようなさけびを今でも忘れられないと当時の医

師が言っていたそうです。これらの話を聞いて、原爆で生き残った人も治療に当たった人もつらい思いをしたのだと思い、胸が痛みました。

ほかにも平和記念資料館で見た、火傷のあとが盛り上がり、体全身がケロイドになってしまうということや、とびちったガラスの破へんが体のいたるところにささって、そのままうろたえて亡くなつて行く人などとても印象的でした。

最後に僕は戦争が僕たちに残したものについてよく考えてみました。戦争が残したもののは苦しみ、悲しみそして憎しみだけです。誰かがお国のためにと言って死んでいく戦争は勝っても負けても誰も得することなく、

ピースメッセンジャーとしての私

7月29日～31日
広島に行ってきました

鳥平和派初日

がいじの室内で初日はまだ主な
屋内電石車をめぐりました。
焚電石車を見ておがだい
死者の妻女に驚きました。

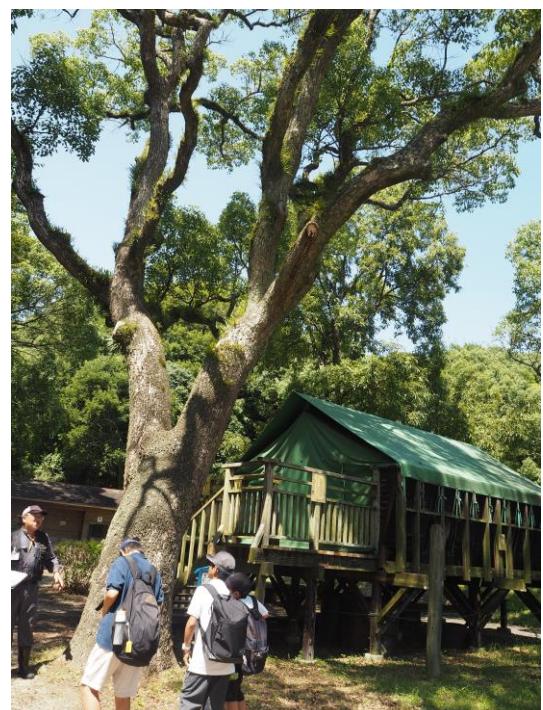


三日目は、被爆者講話
を聞きまし。一「アガ」多く
胸にささしまじ。戦争の
残酷さや、怒(さが)り、
でこました。



広島

むだに命を失うだけなのです。これは、皆が他人事だと考えているからおきることであり、自分の身に置き換えて1人1人何がで起きるか考えることが大切だと思いました。



調布市立神代中学校（一年）



平和とは 原爆とは 戦争とは

涌井 董子

14万人。

あなたはこの数字が何か分かりますか？

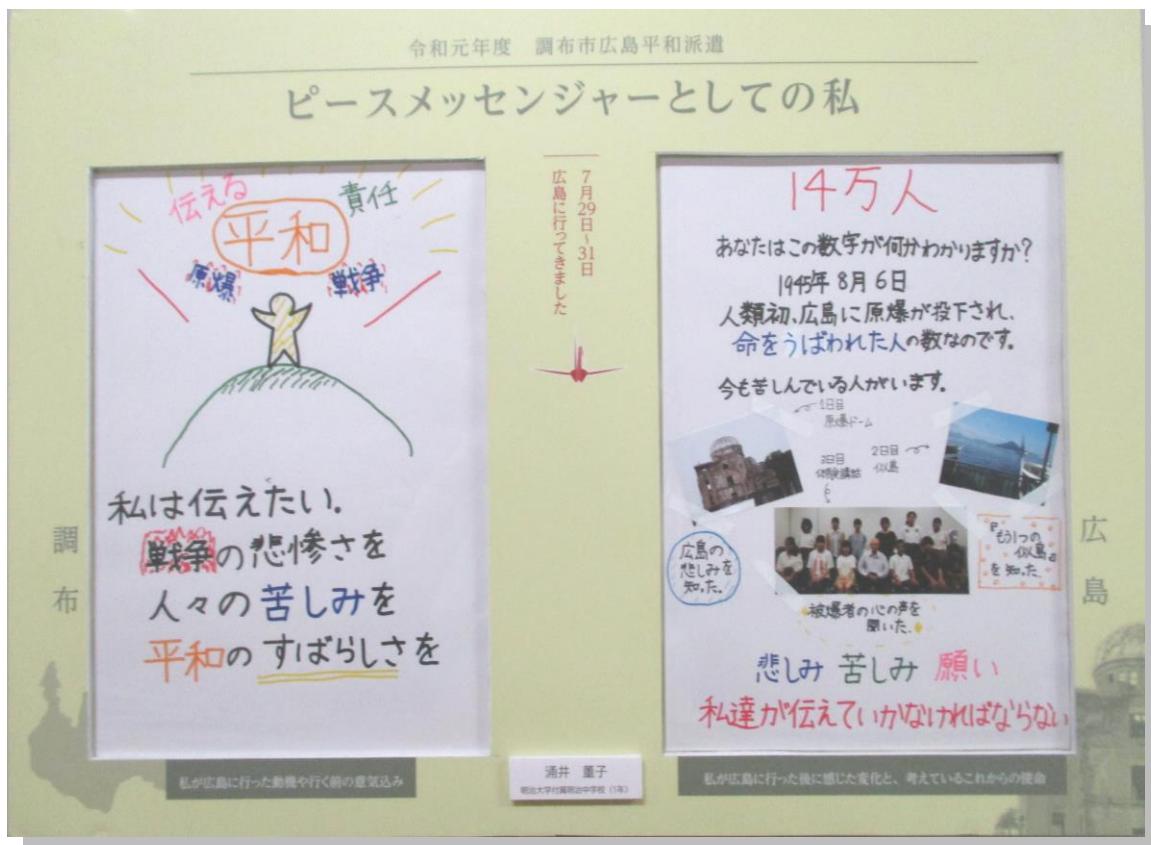
1945年8月6日に人類初、原爆が広島に投下され、命を奪われた人の数なのです。今も苦しんでいる人がいます。

今回、私は調布市ピースメッセンジャーとして広島に派遣された。ピースメッセンジャーとは、調布市民の代表として被爆地である広島を訪れ、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で感じ、そして学び、成果を広く市民へ還元することを目的としたものである。今回は私を含め、12名の中学生で被爆地である広島へ訪問した。

私は6年生の時の自由研究で原爆について調べ、私の祖父や祖母、いとこの住んでいる新潟も原爆投下の候補地に挙げられていたことを知り、私も無関係ではないと思い、戦争についてもっと深く学びたくて応募した。

今回は7月29日から31日までの2泊3日で広島へ訪問した。初日は、広島平和記念公園で、原爆ドームや原爆死没者慰靈碑、原爆の子の像や広島平和記念資料館等に行き、広島市に原爆が落とされた苦しみを肌で感じた。2日目には船で、被爆者が治療を受けに渡った似島へ渡り、被爆者の心の深い傷を知った。そして最終日には、原爆の子の像に調布市の皆さんのが心をこめて折ってくださった折り鶴を私達の手で献納し、広島派遣が終了した。

ピースメッセンジャーとしての私



私の中では似島がとても印象に残っている。遺構巡りを通して、船に乗っている間に死んでしまった人がいることや、生きるために麻酔なしでも手術を希望し、左腕を失った少女がいたこと、また、防空壕を死体安置所替わりに使っていたこと等のエピソードを聞くことで、その時の様子を心と体で知ることで、とても怖くなった。

特に、麻酔なしの手術をした少女の話では、もし自分がその立場だったら自ら手術を申し出ることができたのだろうかと自分に問いかけたりもした。また、この後、救護室の院長は再び少女に会うことになる。院長は多くの人の命を救えなかったことを悔やんでいたが、その少女が生きていたことで、心に刺さっていたトゲが1本取れたような気がしたそうだ。勇気を出した少女、そしてその命を救った院長の話を聞き、命の大

切さを改めて感じた。

戦争がどれだけ悲惨なものか、そして平和がどれだけ大切なか、私の心に深く刻まれた3日間だった。原爆というものは本当に恐ろしい。無差別に人を殺していく。そんなに醜いものなのにまだこの世界には原爆がいくつも存在している。だからこそ私達が率先して戦争・原爆の恐ろしさを、そして、平和の尊さを後世に伝えていかなければ感じた。

安らかに眠ってください
過ちは繰り返しませぬから

第2部

活動報告

ちょうふピースメッセンジャー2019の平和

活動を3つのパートに分けて紹介します。

広島平和派遣前から派遣後までの活動に

について紹介します。

令和元年度 ちょうふピースメッセンジャー2019 活動スケジュール

令和元年	5月26日(日)	申込者向け 事前説明会
	7月 7日(日)	任命式・第1回 事前学習会
	7月22日(月)	第2回 事前学習会
	7月24日(水)	調布サマーフェスティバル2019でのメッセージボード展示
	7月29日(月)～ 7月31日(水)	調布市広島平和派遣 平和関連施設見学／被爆体験者の講話／折り鶴献納
	8月 1日(木)～ 8日(木)	原爆展でのメッセージボード展示
	8月 6日(火) 9日(金) 15日(木)	防災行政無線での默とう呼びかけ 広島原爆の日／長崎原爆の日／終戦記念日
	8月12日(月)	神田さち子ひとり芝居 「帰ってきたおばあさん」観劇
	8月21日(水)	事後学習会
	9月 3日(火)～ 16日(月)	劇団芸優座 「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」観劇
	11月 1日(金) 2日(土)	メッセージボード巡回展「つながる」 郷土博物館
	11月22日(金)	調布スクラムフェスティバルvol. 6 平和祈念事業PRブース出展
	12月 8日(日)	調布市広島平和派遣 青少年ステーションCAPS報告会
	12月19日(木)～ 27日(金)	調布市広島平和派遣 市特別職への報告会 戦争体験映像記録DVD収録
令和2年	1月29日(水)～ 2月 6日(木)	メッセージボード巡回展「つながる」 みんなの広場
	2月 8日(土)～ 2月19日(水)	メッセージボード巡回展「つながる」 たづくりロビー
	2月21日(金)～ 3月 1日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 市民活動支援センター
	3月10日(火)	メッセージボード巡回展「つながる」 北部公民館
		防災行政無線での默とう呼びかけ 東京都平和の日
		【中止】 2月 22日(土)北部公民館平和フェスティバル「ちょうふピースメッセンジャーの報告」
		メッセージボード巡回展「つながる」 東部・西部公民館
	(令和2年3月31日現在)	

Part1【学び】

広島平和派遣へ向けて、また、広島平和派遣を通して、様々なことを見て、聞いて【学び】ました。

申込者向け 事前説明会

(調布市広島平和派遣親子説明会)

日時:令和元年5月26日(日)
午前10時~12時
会場:文化会館たづくり1002学習室

申込を検討している方向けに、本事業の概要、全体スケジュール、派遣期間中の行程、注意事項などを説明しました。



調布市広島平和派遣 募集内容

申込期間：
平成31年4月20日(土)～
令和元年5月31日(金)

応募対象：

- ・市内在住・在学の中学生
- ・調布市の平和関連事業に参加可能な方



募集ポスター

平成31年度 調布市中学生広島平和派遣 申込書					
ふりがな 登録者氏名		男・女 年生月日 年 手 真			
学年名		中学校 年 班			
登録者住所		市・区 (郵便番号)			
この欄の登録情報は個人情報を扱う場合のデータとして扱われ、ご本人が登録情報を入手して下さい。					
口頭での登録情報の確認を頂いた場合、内容について連絡下さい。					
□ 今後は登録情報をご確認の上、ビースタッフセッキーパーとして、当直で現地や平和への想いを用語に沿えていくことを希望します。					
本人、氏名					
*****ここから下は保護者の方が記入してください。*****					
ふりがな 登録者氏名					
登録者住所		市・区 (郵便番号)			
登録情報 (当直の連絡のため登録情報を市内へ入ください) (氏名) 登録情報 (当直の連絡のため登録情報を市内へ入ください) (姓)					
1. 教師の登録情報はありますか。					
是	否	姓名(姓)			
是	否	姓名(姓)			
2. 日常に通じていなさることはありますか。					
是	否	姓名(姓)			
是	否	姓名(姓)			
3. プラスチック製袋はありますか。					
是	否	姓名(姓)			
是	否	姓名(姓)			
保護者登録欄 上記の者が、(調布市中学生広島平和派遣)に参画することを希望いたします。					
保護者氏名 (登録者との関係)					
調布市人権					

申込書

任命式 / 第1回 事前学習会

日時:令和元年7月7日(日)

午前10時~12時

会場:文化会館たづくり1002学習室

任命式

長友市長から“ちょうふピースメッセンジャー2019”となる12人に任命書が交付されました。また、調布市の代表としての心構えや平和学習への期待などをお話いただきました。



第1回 事前学習会

第1回事前学習会では、「調布市原爆被害者の方の会」の河野良彦(かわのよしひこ)さんよりお話を伺いました。

河野さんは原爆投下直後の広島の様子や戦争の悲惨さについてお話くださいました。

ピースメッセンジャーは、熱心に河野さんの言葉を書き留めたり、積極的に質問をし、広島平和派遺に向け平和への関心を深めました。

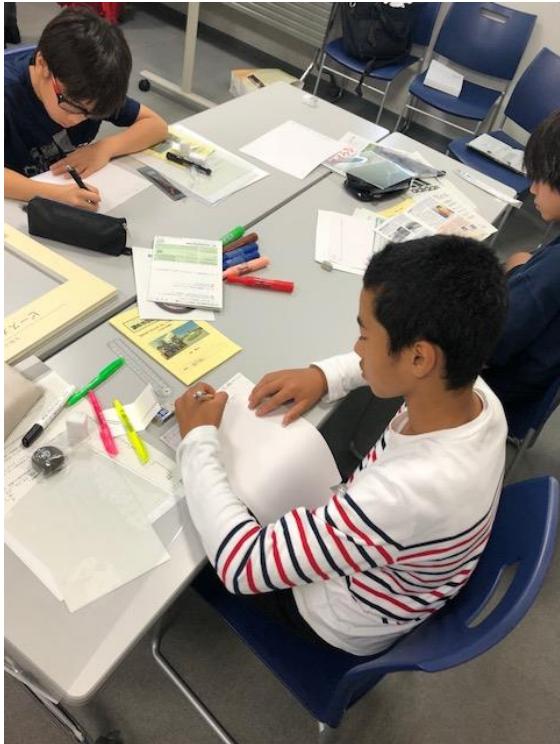


第2回 事前学習会

日時:令和元年7月22日(月)

午前10時~12時

会場:市民プラザあくろす研修室3



NPO法人ちようふこどもネット協力のもと、「ピースメッセンジャーとしてどうなりたいか」を考えるワークショップを行いました。ホワイトボードを使って「派遣に行く前の自分」や「派遣に行った後の自分」を表現し、意見交換を行いました。

そして、派遣前後の広島平和派遣への意気込みや平和への想いを伝えるための「メッセージボード」の作成に取り組みました。一人ひとりの考え方や気持ちを、自由に文章や絵で表現しました。



調布市広島平和派遣

行程表

7月29日(月)調布駅に集合し、広島市へ行きました。様々な平和関連施設の見学や被爆体験者による講話を通して、平和について学びました。



(飛行機で広島市へ)

令和元年7月29日(月)

平和記念公園

- ・原爆ドーム
- ・原爆供養塔
- ・被爆した墓石
- ・原爆の子の像
- ・原爆死没者慰靈碑
- ・動員学徒慰靈塔
- ・平和の鐘
- ・韓国人原爆犠牲者慰靈碑
- ・平和の灯

広島平和記念資料館

一日目



令和元年7月30日(火)

似島

- ・広島市似島臨海少年自然の家にて平和学習
- ・似島遺構めぐり

旧日本銀行広島支店

広島市立袋町小学校平和資料館

二日目



(被爆体験者による講話)

令和元年7月31日(水)

広島平和記念資料館

- ・被爆体験者による講話
- ・特別展示室見学

折り鶴献納

- ・原爆の子の像

島病院(爆心地)

三日目

調布市広島平和派遣

1日目

令和元年7月29日(月)

平和記念公園／広島平和記念資料館



羽田空港から広島へ



原爆ドーム



(上)動員学徒慰靈塔(下)平和の灯



韓国人原爆犠牲者慰靈碑



(上)原爆供養塔(下)被爆した墓石

平和記念公園

世界の恒久平和を願って建設されました。

動員学徒慰靈塔

勤労奉仕に動員され戦禍に倒れた学徒と、原爆の犠牲者を含めた約1万人の学徒の靈を慰めるために建立されました。

韓国人原爆犠牲者慰靈碑

強制労働等により広島で被爆した朝鮮の人々への慰靈と、再び原爆の惨事を繰り返さないことを願い建立されました。

平和の灯

「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」と、昭和39年8月1日に点火されて以来ずっと燃え続けています。台座は、手のひらを広げた形を表しています。

原爆供養塔

昭和21年市民からの寄付により、仮供養塔、仮納骨堂・礼拝堂が建立され、昭和30年広島市が中心となり、老朽化した納骨堂を改築し、各所に散在していた引き取り手のない遺骨もここに集め納めました。

内部には納骨堂があり、一家全滅で身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨約7万柱が納められています。

被爆した墓石

爆心地から約200mの地に慈仙寺(じせんじ)という大きな寺がありました。強烈な爆風により、境内にあったたくさんの墓石は吹き飛ばされました。平和記念公園の中で、被爆当時の地面をそのままとどめているのは、この墓地だけです。公園が盛り土して建設されたため、池の底のようになってしまった部分が当時の地面です。



平和の鐘



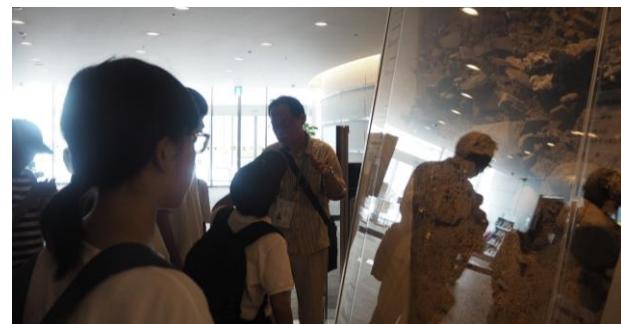
原爆の子の像



平和記念公園



広島平和記念資料館



平和の鐘

核兵器と戦争のない平和共存の世界を目指して、浄財を募り建立されました。鐘の表面には、「世界は一つ」を象徴する国境のない世界地図が浮き彫りされています。

原爆ドーム

昭和20年8月6日、原爆はこの建物の南東約160m、高度約600mのところで炸裂しました。

平成8年12月、世界文化遺産へ登録されました。現在では、被爆当時の惨状を残す姿がノーモア・ヒロシマの象徴として、時代を超えて核兵器の廃絶と恒久平和の大切さを世界へ訴えるシンボルとなっています。

平和記念公園 と その周辺



被爆後の物資不足の時に生まれた「一銭洋食」をルーツに持つ、お好み焼き作りを体験しました。

調布市広島平和派遣

2日目

令和元年7月30日(火)

似島／旧日本銀行広島支店／袋町小学校平和資料館



似島へ向かうフェリーでの様子



広島市似島臨海少年自然の家での平和学習



似島(にのしま)

似島は、日清戦争中の明治28年に(※)第一検疫所、日露戦争中の明治37年に第二検疫所、第二次世界大戦中の昭和15年に馬匹検疫所が建てられました。

爆心地から8km離れた似島は、爆風によって窓ガラスが割れる被害がありましたが、それ以外の直接的な被害はありませんでした。似島の検疫所には約5千人分の医薬品などの蓄えがあったとされ、負傷者のための臨時野戦病院となりました。原爆投下直後は、20日間の間に約1万人の負傷者が似島へ運び込まれました。衛生材料等は4日後には底をつき、ほとんどの被災者は亡くなっています。戦後、似島の地において火葬されることなく埋葬された遺骨や遺品が大量に発掘されました。

(※)第一・第二検疫所では、帰還兵の検疫が行われました。

馬匹検疫所では、軍馬の検疫が行われました。



似島遺構めぐりの様子

- 1 宇品駅プラットホーム敷石モニュメント
- 2 トロッコレール
- 3 馬匹焼却炉跡
- 4 軍用桟橋跡(第二軍用桟橋)
- 5 第二検疫所井戸
- 6 似島陸軍検疫所跡の碑
- 7 横穴防空壕



旧日本銀行広島支店

広島市立袋町小学校平和資料館

旧日本銀行広島支店

爆心地から380mという近距離で被爆しながらも、建設当時の姿を現在も残しています。

被爆時においては、1階と2階は鎧戸を閉じていたため、内部の大破を免れましたが、3階は開けていたため全焼しました。被爆から2日後の8月8日には、銀行の支払い業務が開始され、営業不能となった市内金融機関の仮営業所が設置されたという、金融面から広島の復興を支えた史実を伝える貴重な被爆建物です。



広島市立袋町小学校平和資料館

爆心地から460mの位置にある広島市立袋町小学校(当時袋町尋常高等小学校)は、原爆によって大きな被害を受けました。当時、多くの児童は集団疎開や縁故疎開により被災を免れましたが、残っていた百余名の児童、そして教職員のほとんどが一瞬にして命を失いました。木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが外郭のみ原型をとどめ、避難場所や救護所として、児童・教職員や地域の人々の安否を尋ねる場となりました。人々は、床に散らばるわずかなチヨークで、焼けた壁に伝言を記しました。授業が再開されたのは、昭和21年5月でした。

調布市広島平和派遣

3日目

令和元年7月31日(水)

広島平和記念資料館／折り鶴献納／島病院

(被爆体験者による講話・特別展示室見学)

被爆体験者による講話

会場: 平和記念資料館 会議室

くにわけ よしのり
講師 國分 良徳 さん

旧制中学4年生の16歳の時、動員先の工場へでかけようとしたところ、爆心地から1.8km離れた自宅で被爆しました。



平和記念資料館 会議室にて講話を聞く様子



國分さんとちょうふピースメッセンジャー2019



広島平和記念資料館(特別展示室)



原爆死没者慰靈碑前



原爆の子の像



原爆ドーム



島病院(爆心地)

広島平和記念資料館

被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の被爆前後の状況を紹介しています。



原爆死没者慰靈碑 (広島平和都市記念碑)

碑文には、「安らかに眠ってください過ちは繰り返しませぬから」と書かれています。



原爆の子の像

「鶴を千羽折れば病気が治る」と祈り鶴を折り続け、願い叶わず亡くなった佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちへの慰靈と平和の願いを込めて建設されました。



島病院(爆心地)

人類史上最初に使用された原子爆弾は、この上空約600mで炸裂しました。爆心直下となったこの一帯は、約3千~4千度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が瞬時にその命を奪われました。

調布市広島平和派遣 3日目 「原爆の子の像」へ 折り鶴献納



調布市内各施設や平和祈念事業等で集まった折り鶴
約 7,800 羽を献納しました。

折り鶴を献納する様子





原爆ドーム前

折り鶴を献納する様子



事後学習会

日時:令和元年8月21日(水)
午前10時~12時
会場:文化会館たづくり1002学習室

派遣期間中に学んだことを振り返りながら、
平和への想い等をそれぞれ書き、メッセージボードを完成させました。



Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。



青少年ステーション CAPS 報告会

日時:令和元年11月22日(金)

午後4時30分~6時

会場:青少年ステーション CAPS
クラフトルーム

青少年ステーションCAPSの利用者へ
向けて報告会を実施しました。

最後に意見交換をしました。



市特別職への報告会

日時:令和元年12月8日(日)

午前10時~11時30分

会場:教育会館 研修室301

市特別職や関係者へ広島平和派遣を通して学んだことを報告しました。



報告会の内容

報告会では、以下の内容を発表しました。

はじめに

2019年は、終戦から数えて74年目に当たります。時間が経つと共に、戦争を経験された方もお年を召され、お話を聞ける機会が少なくなっています。私達が大人になるころには、もっと難しくなるのかもしれません。

自分自身が経験したことのない出来事の、ありのままの様子を実際に聞くことができるというのは、とても貴重なものであると考えています。

今の平和な暮らしの前には、私達が想像もできないことがあったのだと、もうあつてはならないことだと思い、それを誰かに伝えたいという気持ちを持って広島へ行きました。そして、これから3日間の貴重な体験を報告します。どうぞお聴きください。

(橋 周子)

任命式・事前学習の報告

初めての顔合わせの時、私はとても緊張していました。どんな人がいるのか、どんな活動をしていくのか、すべてが未知だったからです。

第1回事前学習会では、他メンバーと交流をとる機会がほとんどなく「このメンバーで大丈夫かな」と思う場面も多々ありました。しかし、第2回事前学習会ではメンバーとコミュニケーションをとる機会を与えていただきました。学習会では、丸を書いて様々な表情を書くグループワークを行ったり、派遣前の想いを書いたりしました。1回目とは雰囲気が違い、和気あいあいとしていました。

私はこの第2回事前学習会はかなり価値のあるものだと思っています。連絡先を交換するなど、学年を超えた友情が芽生えたと個人的に感じました。広島に行くことがさらに楽しみになったきっかけにもなりました。任命式から2回にわたるスパンは長かったですが、その時間多くのことを考えさせられ、少し成長できた部分もあったと思います。その3日間はとても私にとって有意義な時間でした。

(樋口 杏)

広島平和派遣【1日目】

令和元年7月29日(月)

広島平和記念公園内を見て回りました。私たちが歩いた地面の下には、今も当時の瓦礫や遺骨が眠っているそうです。

最初に原爆ドームを見ました。実際に見たのは初めてでした。昔は取り残しに反対した人がいたそうです。けれど、今では私たちの様に戦争を知らない世代にとって、戦争の悲惨さを実感出来る場所であります。

次に、国境のない鐘を見ました。世界地図が書かれていますが、国境はありません。

公園内の大好きな慰霊碑は戦時に日本で亡くなった韓国の方のお墓でした。母国にも帰れない状況下で、骨だけが残ったのです。後に、日本人がその慰霊碑を造ったそうです。慰霊碑は、大きな亀の上に乗っており、その亀は、母国である韓国の方を向いています。

原爆死没者慰霊碑の中央の石室には、毎年8月6日に被爆して亡くなられた方の名前を記帳した原爆死没者名簿を納めています。

原爆の子の像の周りには、全国から寄せられた多くの鶴が献納されています。

「広島へ行けず、見る事が出来無いけれど、自分の想いを届けたい」という気持ちが、数千万分の折り鶴となって、飾られていました。私達は、像の中にある鐘を、数人に分かれて鳴らしました。鐘の音は、驚く程長く、美しく、大きく響きました。

そして、平和の灯についても教えていただきました。手首を合せて、手のひらを上に向けた形をしています。今は火がついていますが、世界から核兵器がなくなると、この火は消されるそうです。

平和記念資料館は、余りにも生々しいモノばかりありました。しかし戦時には、もっと酷く、リアルだったことでしょう。そこにある悲惨な写真や資料の、数倍は悲惨な状況であったのだろうと思いました。外国人観光客もあり、かざられている写真を見て、涙を流す人も少なくはありませんでした。

脳みそはパンク寸前でしたが、貴重な体験とお話をなので、ちゃんとノートに書き留めておきました。世界が本当に平和になる為に、必要だからだと感じたからです。

(福澤 優)

広島平和派遣【2日目】

令和元年7月30日(火)

私たちは、まずフェリーで被爆者が治療を求めて避難していた似島へ行き、臨海少年自然の家というところへ行きました。臨海学校に使われ、戦争について深く知つてもらうためにも、この場所は使われています。

特攻隊には飛行機で自ら敵へ突進する神風特攻隊のほか、船を使った特攻や、爆弾を体に巻いて突進することもあったそうです。戦争というものが、人の命の尊さを忘れさせてしまうと感じ怖くなりました。

周辺の遺構巡りをしました。山の中に七つの横穴を掘った横穴式防空壕などを見学しました。防空壕は、生きている人間が避難する場所というだけでなく、火葬場で処理できない死体を運び入れる場所にもなっていたそうです。異臭がひどく、次から次へと死体が運び込まれ、入口がふさがれるほどだったということです。

生きるために、麻酔なしでやけどの手術を受けた少女と、手術を執刀した医院長の話も伺いました。私は、心が締め付けられる思いがしました。戦争が終わっても、大勢の人の命を救えなかったことをとても悔やんでいましたが、その後に少女に再会し、助けた命もあることを知り、心に刺さっていたトゲが1本とれた気がしました。

また、症状が悪化すると嘔が流れ、水を被爆者へ与えるなど当時は言われていたそうです。

そんな中、ある15歳の少年は、被爆者へ一瞬の安らぎを与えるたいと思い水をあげました。すると「ありがとうございます」と言って被爆者は死んでいきました。一方で、少しでも長く生き延びて家族に会わせてあげたいと思い、水をあげなかつた男性もいました。被爆者は、水を求めながら死んでいきました。どちらの行動が正しかったということはありませんが、改めて、戦争、原爆の恐ろしさを感じさせられました。

広島市立袋町小学校平和資料館は救護所として利用されていたほか、壁面には被爆者の消息を伝える伝言が数多く記されていたそうです。伝言を書いている時の被爆者や待っている家族の気持ちを考えると、心が苦しくなります。そして、被爆者はとても苦しみながら最後を迎えたのだと思うと、さらに悲しくなりました。

生き延びることができた人も今も心に傷を抱えています。実際に広島へ足を運び、当時の人たちの気持ち、傷を知ることができ、とても貴重な体験でした。

再び戦争を起こさないために、これから私達に何ができるのか、自分自身に問いかけた2日目でした。

(涌井 董子)

広島平和派遣【3日目】

令和元年7月31日(水)

最初に行ったところは平和記念資料館です。そこでは被爆体験者である國分さんの講話を聞きました。國分さんの家族は原爆で妹と自分以外全員亡くなつたそうです。家族が住んでいたところが火の海になり、助けるすべもなくただただその炎を見ているだけしかなかった國分さんの気持ちを考えると胸が張り裂けそうでした。講話を聞いた後は、1日目に見ることができなかつた特別展示室の資料を見ました。

次に、平和記念公園へ行きました。平和記念公園の中にある原爆の子の像という像に市民の方々に折つていただいた折り鶴を献納しました。

折り鶴の短冊には、この経験を通して、たくさんのことを感じ、考え、学んだことを、ピースメッセンジャーそれぞれの平和への想いを記載しました。

僕は折り鶴を献納したときにこの折り鶴に色々な人の思いが込められているのだなと思い、皆平和を祈る気持ちちは一緒なのだなと思いました。

最後に爆心地の島病院へ行きました。ここは、原爆ドームからとても近い所にあります。今も病院として使われています。

僕はこの派遣で様々な人の気持ちに触れ、感じ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

(福島 帆高)



(上)広島平和記念資料館見学 (下)國分さんとちようふピースメッセンジャー2019

学んだこと・感じたこと

一番心に残った場所は、似島です。私は似島を知りませんでした。似島は原爆の影響は少なかったそうですが、火傷や怪我をした人の看病に使われ多くは亡くなってしまい、丁寧に埋葬することができず、大量の遺体を埋めたそうです。私が訪れた似島は、青空で緑がきれいなところでした。しかし、そんなつらい現実があったことを知り言葉にできないくらい悲しくなりました。

原子爆弾という兵器により何も罪の無い人が一瞬で殺される恐ろしさが今まで以上にせまっていました。傷を負った人や残された家族などの人もずっと辛い思いをかかえて生きていることも知りました。

家では、広島の派遣を機に、原爆や戦争の特集のテレビや展示を見るようになりました。今の平和を保つためには、戦争や原爆の悲惨さについて多くの人に興味を持ってもらうことが大切だと思います。友達などの周りの人にこの派遣で学んだことを伝えたいと思います。

(松本 真紀)

私は、小学校の時、広島に原爆が投下された悲惨な過去を知りました。そして、どういう事があったのか知りたくて応募しました。

広島に行って、残り少ない被爆者の体験談を聞いたり、平和記念公園や資料館、似島に行ったりなどと貴重な体験をしました。そこには、目を覆いたくなるような痛々しい傷跡など丸焼けになった町の写真が残されていました。原爆の威力の強さを感じました。一瞬にして辺りを燃やし、たくさんの死者や怪我人を生み本当に地獄のような状況だったと思います。当時の人たちは、水を飲んだら死ぬと言われていたらしく、私たちが普段当たり前のように生活出来ていることはすごいことだと知りました。

今回の学習で、いろんな人の思いやその時の状況を知ることができました。私は、この体験を大切にしていきたいと思います。

(小笠原 直子)



派遣で特に印象深かったことがいくつかあります。まず、2日目の似島です。そこは、広島に原爆が投下された後、その負傷者の臨時野戦病院となったところです。そこには1万るもの人が集まつたそうですが、殆どの人が亡くなつたそうです。罪のない人がそんなに亡くなり、本当に残酷だと思いました。そして、3日目の被爆体験者講話も印象に残りました。戦争によって家族を失う悲しみ、戦後の苦労、それがひしひしと伝わってきました。

小学校でも戦争のことは学びました。しかし、それは、なぜ戦争が起こったかという内容で、「国」が戦い、「国」が負けたという、自分とは遠いことを感じていました。しかし、直接市民の方のお話を伺い、戦争は「国」や一部の人にしか関係のない出来事でも、自分に無関係なことでもないと感じました。

今の時代はある程度の平和が保証されているため、平和に対する有難さ、平和を維持しなくてはいけないという感情が薄れていると思います。

今回の派遣では知識が増えました。関連の本やテレビ番組などにも目が行くようになりました。しかし、調布市の代表として広島に行ったからには、自分の知識を増やすだけでなく、たくさん的人に平和の尊さを伝える責任があると思っています。

(福村 麻人)

平和祈念事業

調布市では、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ちょうふピースメッセンジャー2019も平和祈念事業へ参加しました。
ここでは、各種事業の紹介とその様子を紹介します。



北部公民館 折り鶴をつくる様子



原爆の子の像

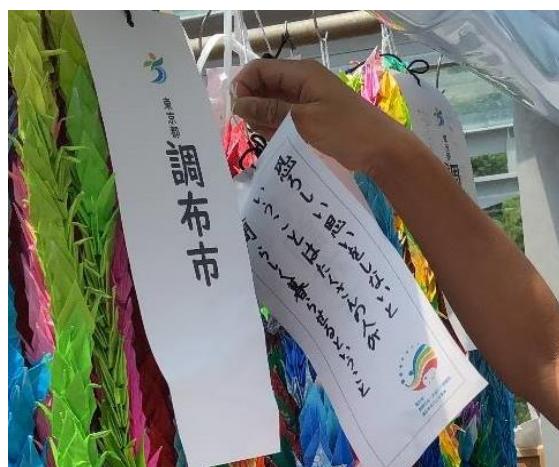
折り鶴プロジェクト

日程: 平成31年4月19日(金)～
令和元年7月3日(水)

場所: 市内各施設、市内中学校
(その他イベント会場においても実施)

「折り鶴」をきっかけに、市民の方に平和の尊さや命の大切さについて考えていただくプロジェクトです。

つづった折り鶴は、令和元年7月31日(水)に広島平和記念公園の原爆の子の像へピースメッセンジャーが献納しました。



折り鶴を献納する様子

▶調布サマーフェスティバル2019

日時:令和元年7月24日(水)

午後4時~7時30分

会場:東京オーヴァル京王閣

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催1年前にあたる令和元年7月24日(水)に行われた「調布サマーフェスティバル2019」の平和ブースにおいて、派遣前のピースメッセンジャーの想いを書いたパネルを展示し来場者に見ていただきました。



▶原爆展

日時:令和元年8月1日(木)~

8日(木)

午前10時~午後6時

会場:文化会館たづくり南ギャラリー

今年度の原爆展では、長崎市から借用した被爆資料やピースメッセンジャーが作成したメッセージボードの展示をし、来場者に見ていただきました。



▶黙とうの呼びかけ

8月6日(広島原爆の日)、9日(長崎原爆の日)、15日(終戦記念日)、3月10日(東京都平和の日)に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和の実現を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。令和元年度は、ピースメッセンジャーが黙とうの呼びかけをしました。

神田さち子ひとり芝居 「帰ってきたおばあさん」



日時:令和元年8月12日(月)

午後2時から

会場:文化会館たづくりくすのきホール

終戦後、中国に取り残された「中国残留婦人」の激動の人生を描いたひとり芝居の公演を観劇しました。

公演の前後にロビーにてメッセージボードの展示を行い、来場者に派遣で学んだことを発信しました。



くすのきホール前(上)展示の説明をする様子 (下)神田さち子さんとちょうふピースメッセンジャー2019

劇団芸優座 「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」



日時:令和元年8月21日(水)

午後3時から

会場:グリーンホール大ホール

「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」の公演を観劇しました。

公演の前後にロビーにてメッセージボードの展示を行い、来場者に派遣で学んだことを発信しました。

▶調布スクラムフェスティバル vol.6

日時:令和元年11月1(金)~2日(土)
会場:調布駅前

平和祈念事業PRブースにおいて、メッセージボードの展示と折り鶴体験コーナーを設け、来場者に折り鶴を折っていました。

ピースメッセンジャーは、来場者に派遣で学んだことを発信したり、一緒に鶴を折りました。



▶戦争体験映像記録

日時:令和元年12月8日(日)
会場:文化会館たづくりスタジオ

戦争を体験した市民の方々のお話を映像で記録する「戦争体験映像記録」の撮影を行いました。

ピースメッセンジャーは戦争体験者2名にインタビューを行い、当時のお話や自分たちで考えた質問を聞いてみるなど、積極的に参加しました。



調布市広島平和派遣
メッセージボード巡回展「つながる」

ちようふピースメッセンジャー2019の平和への想いが込められた
メッセージボードを、市内イベントや市内各施設等で順次展示しました。

令和元年9月3日(火)~16日(月)

郷土博物館



令和元年12月19日(木)~27日(金) 文化会館たづくり1階みんなの広場



令和2年1月29日(水)~2月6日(木)

文化会館たづくり1階ロビー



令和2年2月8日(土)～19日(水)

市民活動支援センター



令和2年2月21(金)～3月1日(日)

北部公民館



Part3

【自主活動】

平和祈念事業への参加だけではなく、学校
での報告や自主学習として積極的に【発信】
しました。

【自主学習】 湧井 董子(明治大学付属明治中学校1年)
【学校での報告】 松本 真紀(晃華学園中学校1年)

涌井 董子

(明治大学付属明治中学校1年)

自主学習として学んだことをまとめました。

2019年度調布市広島派遣

戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える



明治大学付属明治中学校 1年B組 涌井董子

140,000人

74年たった今も、苦しんでいる人がいます

あなたは
この数字が何か、わかりますか？

1945年8月6日午前8時15分
人類初、広島に原子爆弾が投下
命を奪われた人の数なのです

1、はじめに

ピースメッセンジャーは、調布市民の代表として被爆地である広島市へ派遣され、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設けられ、その成果を広く市民へ還元することを目指す。

本紙は、事前学習から広島派遣、事後学習を経て、その成果を報告するもの。

6

2、原子爆弾とは何か？

物質のもと → 原子

原子の中心 → 原子核

一つの原子核が二つに分かれる → 核分裂

核分裂が連鎖的におこし、莫大なエネルギーを放出させるのが

原子爆弾（原爆）

7

3、なぜ原爆が投下されたか？



東南アジアから資源を奪い戦争をしていたが、1945年3月以降、米軍の攻撃が激しさを増し、日本の戦況は圧倒的に不利になっていた。



原爆投下で戦争が終われば、戦後ソ連より優位に立つことができる。また原爆開発を国民に正当化できると考えた。

8

4、なぜ広島に投下されたか？

理由1

原爆の威力を測定できるよう、直径3マイル(4.8km)以上の市街地を選んだ。

理由2

広島に連合国軍の収容所がないと考えられていた。

理由3

8月6日広島は晴れており、原爆が投下目標を目で確認して投下することが可能だった。

9

5、広島に投下された原爆



広島の原爆リトルボーイ



(参考) 長崎の原爆ファットマン

- リトルボーイはウランが原料
- ウラン235、1gからの熱量は、石炭の300万倍
石油の200万倍
- それが今回は50gも使われた。
しかし実際には5分の1しか核分裂しなかった。にもかかわらず14万を超える人が亡くなった。

10

6、爆心地周辺

現在の平和記念資料館の北東が爆心地。

その隣が原爆ドーム。

平和記念資料館前に
は原爆死没者慰靈碑、
原爆の子の像などがある。



7、広島平和記念資料館

被爆者の苦しみを伝える目的で、2019年4月25日に

リニューアルオープンされた。

被爆者の遺品、
被爆の惨状を示す写真や資料等、
実物を展示され
ている。



本館のホワイトパノラマ



被爆者の遺品

12

8、原爆ドーム

☆爆心地から近かったため、熱線で窓が溶け、爆風の通り道ができたので、骨組みだけは残った。

・原爆ドームを見ると亡くなった方を思い出すため、取り壊そうという意見と、未来のために残そうという意見で10年以上討論された。



13

9、平和の鐘

・ドームが宇宙を、鐘が地球を表している。

・周りの水は、亡くなった人へささげる。

・原爆投下時は満潮だったので

人々は「熱い、熱い」と

周辺の川へ飛び込んだ。



14

10、原爆の子の像、原爆死没者慰靈碑

・全国から寄せられた折り鶴が
献納される。1年に1回、折り鶴は
ノート等にリサイクルされ子供達
の元に届けられる。

・慰靈碑には死没者約32万人の
名簿116冊が奉納され、
年に1回風通しがされる。



折り鶴

原爆の子の像

15

1 1、似島 ～似島とは～

広島港から約3kmの沖合に位置する自然豊かな小さな島。

似島は爆心地から8km離れていたため直接的な被害がなく、その上似島の検知所には約5000人分の医薬品等があったため、被爆者が運ばれてきた。



16

1 1、似島 ～防空壕～

- 7つの入り口がある。
→1つの入り口がふさがっても出入りができる。
- 防空壕に火葬場で処理できない死体を運び入れた。異臭がしていいたが、次から次へと死体が増えるので入り口がすぐにふさがってしまった。



防空壕 17

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[勇敢な少女]

ケロイドになるのを防ぐための手術はあと数回ならできる。でも麻酔がない。そんな中、唯一自ら手術を受けたいと申し出たのは少女。彼女は左腕に火傷を負っていた。医師達は皆心を鬼にして手術に取り掛かったという。

戦後、大勢の人の命を救えなかつたことをとても悔やんでいた院長の前に現れたのは左腕のない女性だった。あの時の少女だった。院長は、心に刺さっていたトゲが1本とれた気がした。

18

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[水を与えてはいけない]

被爆者に水を与えると死ぬという噂が流れていた。

水を与えないで2～3日は生き延びることができ、家族に会わせてあげられるかもしれない、そう考えた男性は、病院の中に「水を与えてはいけない」というポスターを作った。しかし、目の前でたくさんの被爆者が水を求めるながら死んでいった。

19

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[水をくれ]

陸軍にいた15歳の青年は、防空壕で被爆者に足をつかまれ、「水をくれ」と訴えられた。水を与えてはいけないという命令が出ていたが、見ていられなくなつて、こっそり水を与えた。すると、その被爆者は、「ありがとう…」と言って笑つて死んだ。

どちらが正しかつたのだろうか

20

1 2、袋町小学校平和資料館

被爆直後から被災者の救護所として利用されていた西校舎内の壁面には被爆者の消息などを知らせる「伝言」が数多く記され、今も残っている。

また、ここにも折り鶴が献納されている。



21



(上)広島市似島遺構めぐり (下)広島市立袋町小学校平和資料館見学

13、被爆体験者の講話 河野さん

・プロフィール
現88歳、再生可能エネルギー関係の仕事をしている、入市被爆した

学校には防空壕があり、空襲がはじまたらすぐにそこに逃げるようにと言われていた。

教室に毛布を持ち込んだので床板の隙間に毛が一杯詰まり、そこに蚤が大量発生したため、夜間に交代で自分の足に集まる蚤を廊下で捕殺した。 (つづく)

22

13、被爆体験者の講話 河野さん

(つづき) ようやく周りが明るくなったので逃げようとするが、橋の隙間に足をとられて動けなかった。友達に助けを求めるが脱出できたが、靴の裏側が裂けて、足の裏に約10cmの裂傷をうけていた。上着もズボンも焼けてボロボロになり、左顔面が一皮めくれていた。それがかゆくてたまらず、知らずに搔き破っては膿が流れ出すという長い経過をたどって、左顔面から左耳下にかけての大きなケロイドを残した。

25

13、被爆体験者の講話 河野さん

(つづき) 大分に帰省後、広島に戻るため鉄道の駅に向かっている時に、広島に原爆が落とされた。空襲警報が鳴り響き、一時降ろされたりしながらも広島市内へと向かい、変わり果てた惨状を見た。駅にて、門限に間に合わなければならぬという軍隊の厳しい掻きに縛られて、悲惨な現状にも無感動だった河野さんは、ホームで子供の名前を呼ぶ母親の声に初めて人間の感情に戻り、涙があふれたという。

23

13、被爆体験者の講話 國分さん

・プロフィール
現90歳、お寺の息子さん、9人家族（母、父、妹3人、弟2人、姉、國分さん）

いきなり閃光がピカッと走り、頭を殴りつけられたような衝撃がきて柱に打ち付けられた。弟Aと父は脱出できていた。妹Aの声がしたので行くと材木に足を取られていた。助けることはできたが足が折れていた。母は弟Bと妹Bを抱いたまま死んでいた。即死だった。 (つづく)

26

13、被爆体験者の講話 河野さん

・直爆した同級生藤田さんの被爆経験

鶴見橋西詰めの空き地にて、北を向いて作業開始直前の訓示を聞いていた。すると突然青白い閃光が左斜め上からピカーッときた。続いて起こった強大な爆風と熱線に思わず後ろ向きになり、何かに叩きつけられたように橋のたもとにうつ伏せになった。辺り一面灰色のどす黒い高温の風が吹き抜け、全身が波のような強い力で圧迫された。 (つづく)

24

13、被爆体験者の講話 國分さん

(つづき) 翌日姉が帰ってきた。強制労働先から線路に沿って帰ってきたという。爆心地から近いところにいた妹Cは全身火傷をしていた。なんとか見つけて家に連れて帰ったその夜に妹Cは亡くなっていた。

その後も簡単な家を作つては雨風によって何度も壊れたり、親戚が黒い雨のせいで亡くなったりと、大変な日々は続いた。

27



(上)第1回事前学習会 河野さんの講話の様子 (下)広島平和派遣 國分さんの講話の様子

ちようふピースメッセンジャー 2019実施事項

1. 事前勉強会

- ① 戦争体験者 河野良彦さんの講話
- ② 学びたいこと・成果をどう市民へ伝えるか（グループワーク）

2. 広島派遣（2019年7月29日～31日）

- ① 平和学習（広島）

広島観光ボランティアガイドの森幹男さんによるガイドで原爆ドーム、原爆の子の像、平和記念資料館、公園内見学、見学後ミーティング

- ② 平和学習（似島）

広島市似島臨海少年自然の家の末繁さんのガイドで遺構巡り、平和研修プレゼンテーション、見学後ミーティング

28

ちようふピースメッセンジャー 2019実施事項

4.（今後の予定）報告会

- ① 同年代に向けた派遣報告・発表
- ② 市長等、市特別職に向けた派遣報告
- ③ 戦争体験映像記録撮影（インタビュアーとして参加）

30

ちようふピースメッセンジャー 2019実施事項

- ③ 平和学習（広島）

広島市立袋町小学校

- ④ 被爆体験者 国分良徳さん講話

- ⑤ 原爆の子の像へ折り鶴献納

3. 事後学習会

- ① 原爆屋に参加、被爆体験者 河野さん講話

- ② 神田さち子ひとり芝居観劇「帰ってきたおばあさん」

ロビーにて一般の方からの派遣に対する質問受付、回答

- ③ 報告会準備

- ④ 「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピアン」観劇

- ⑤ 広島平和派遣感想文提出

29

参考資料

- ・広島平和記念資料館 平和学習ワークブック
- ・広島平和記念資料館 学習ハンドブック
- ・広島平和記念資料館 平和記念公園めぐり
- ・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 パンフレット
- ・広島市似島臨海少年自然の家 似島
- ・袋町小学校平和資料館 パンフレット

31

安らかに眠ってください
過ちは繰り返しませぬから



32



原爆死没者慰靈碑の前 折り鶴献納前の様子

松本 真紀

(晃華学園中学校1年)

晃華学園中学校の終業式
に全校生徒の前で、広島平和
派遣について発表しました。



体育館にて発表をする様子

私は、調布市の中学生平和派遣に参加し、ピースメッセンジャーとしてこれまで様々な体験をさせていただき、原爆や戦争のこと学んできました。この派遣を通して感じたことを報告します。

この中学生平和派遣に申し込んだきっかけは、本や学校で習ったことしかない戦争や原爆のことを、体験者の方にお話を聞いたり、広島に行き実際に目で見たり感じたりして、もっと平和について自分なりに考えたい、自分に何ができるのだろうと考えたからです。

最初は正直、ただ原爆や戦争はダメと当たり前の事として思っているだけでした。しかし、事前学習会で戦争体験者の方のお話を聞いたり、実際に広島で資料や遺構をみていくにつれて、原爆の恐ろしさが今まで以上に私にせまってきました。

広島では、平和記念公園や展示が新し

くなった原爆資料館を見学しました。そこでは原爆が投下された直後の写真や市民の描いた絵が心に残っています。全身にやけどを負った人の顔や、死の斑点ができた兵隊の絶望に満ちた顔が忘れられません。また、たくさんの遺品とそのエピソードも紹介されていました。それを使っていた人たちは、元は今の私たちのように普通に生活をしていた人たちでした。人工的に作られたたった1つの原子爆弾という兵器で、何も罪のない人が一瞬にして、身元もわからない位の状態で亡くなってしまったり傷ついた現実を知り、言葉にできないくらい悲しい気持ちになりました。

爆心地から460mしか離れていない袋町小学校にも行きました。児童、教師共に一瞬にして命を失った場所です。鉄筋コンクリートの校舎も倒壊全焼し、唯一残った西校舎の壁面には、離れ離れになって見つからな

い家族への伝言が今も残っていました。

原爆による放射線によって今でも後遺症に苦しんでいる人もいます。火傷が治った跡が盛り上がるケロイドは、かゆみや痛みだけでなくまわりからの視線や言葉による精神的な苦痛を受けたそうです。被爆によって胎児にも影響を及ぼしたりもしました。命があっても、その後つらい人生を送ることになってしまいました。原爆によって多くの人の命が犠牲になっただけなく、生きる気力を無くした人や、大切な家族や友人を亡くしてしまって苦しんできた人々もいます。広島にいる間、胸がしめつけられる想いでした。

広島に行って一番心に残った場所は、似島です。私は似島のことを知りませんでした。似島は広島本土と違い原爆の影響は少なかったそうですが、原爆で火傷をした人やケガを負った人が次々と運び込まれて看病のために使われたところです。島で治療してもらう人があまりにも多く、手あてが受けられたら生きていたかもしれない人も多く亡くなりました。多すぎて丁寧に埋葬することができず、遺体をそのまま埋めたり防空壕につめこんだりしたそうです。私が訪れた似島は青空で緑がきれいなところででした。原爆が落ちる前もきっとそうだったと思います。しかし原爆により多くの人が負傷して運び込まれ、まったく違う島になってしまった。そこで起こった出来事を知り、悲

しみでいっぱいでした。

私は今回広島を訪れて、遠くの世界の出来事であった原爆のことが、目の前に「現実に起こった」という事実が胸にせまってきた。まだ広島の土の下には、当時のがれきがたくさん埋まっているそうです。幸せな家族の生活が、原子爆弾によって人為的に一瞬でこわされてしまいました。そして多くの命が奪われました。傷を負った人や残された家族の人もずっとつらい思いをかかえて生きてきたことも知りました。私は今の平和な風景を、焼け野原だったり苦しむ人がたくさんいる残酷な風景にしたくないと強く思いました。

私の家では、広島の派遣を機に、原爆や戦争の特集のテレビを見たり展示を見に行ったりするようになりました。家族で戦争や原爆の話をする時間も増えました。つらくて目をそむけたくなることもあるかもしれません、今の平和を保つためには、戦争や原爆の恐ろしさや悲惨さについて多くの人がまず興味を持つことが大切だと思います。戦争体験者は少なくなっていますが、後世に伝えることが使命だと考えて講演をしたり執筆をしている方もいらっしゃいます。皆さんもぜひ、その方のお話を聞いたり、実際に現地を訪れて自分で感じてみてください。私も、これからも、平和や戦争について関心をもち考える時間をつくっていこうと思っています。



第3部

資料

広島平和派遣以外にも市では
平和に向けた様々な取組を行って
います。

へいわしゅちょうかいぎ 平和首長会議

平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

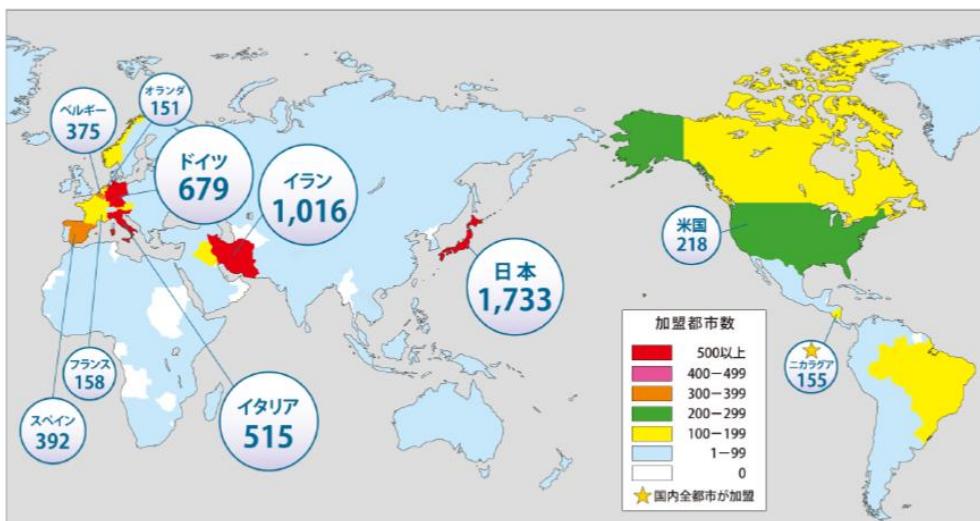
平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議※」に加盟いたしました。調布市は加盟国として、原爆展をはじめとする様々な平和祈念事業を実施しています。



※(平成25年8月6日付けて「平和首長会議」に名称変更)

▲ 加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



加盟都市数(令和2年3月1日現在)
163か国・地域 7,869都市 うち国内加盟都市数1,733都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

平和首長会議

「平和なまち」絵画コンテスト

平和首長会議は、同会議が定める行動指針「2020 ビジョン」の中の具体的な取組として「平和教育の充実」を掲げ、加盟都市における平和教育の更なる充実を図ることを目的として「平和なまち」絵画コンテストを行っています。

調布市内で募集を行ったところ、2作品ご応募がありました。



もりた まゆ
森田 真由さん(6歳)

青空の下、色々な国の人と手をつないで仲良し。



いば みほ
射場 光歩さん(6歳)

大好きなブランコと海とみんなが優しい気持ちになるマンションがある町。

そうしたら虹がかかるってニコニコのお日さまが出てきました。ちょうどよも飛んでいるよ。みんなが安心して住める町です。

2020 ビジョン (核兵器廃絶のための緊急行動)

目的

目標年次である2020年に向け、平和首長会議は、2017年8月に長崎市で開催した第9回総会において、世界恒久平和への道筋として「核兵器のない世界の実現」と「安全で活力のある都市の実現」の二つに取り組んでいくことを掲げた「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」を策定し、これに基づく取組を推進しています。

主な取組

- ・国連・各政府に対する要請
- ・加盟都市の拡大
- ・リーダー都市を中心とした地域グループによる活動の展開
- ・被爆樹木二世の苗木の配付
- ・青少年「平和と交流」支援事業
- ・「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動
- ・平和首長会議原爆ポスター展の開催
- ・平和教育の充実

平和教育の充実

子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト

平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図ることを目的として、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを実施し、12点の受賞作品を決定しました。



受賞作品
ロシア・クラスノダル市
アナスタシア・
スコベルツイナさん(9歳)
街の上を飛ぶ天使は、その
街に住む人を励まし、元気
にします。

(説明文、絵は平和首長会議ホームページから抜粋)

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布市は、昭和58年9月27日に市議会による「調布市非核平和都市宣言」、
平成2年3月23日に市による「調布市国際交流平和都市宣言」を宣言しています。
これらを踏まえ、市では世界平和に向けて、様々な平和祈念事業に取組んでいます。



市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。
外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。

調布市非核平和都市宣言

世界の平和は人類共通の権利である。
核兵器保有国間で核軍縮競争が激化している今日、核戦争を回避し、原水爆の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。
わが国は、戦争による世界唯一の核爆発国として、また平和憲法の精神からも核兵器の廃絶と軍備縮小の進展に積極的な役割を果たさなければならない。
したがってわが調布市は、非核三原則の完全実現を願い、憲章に非核平和都市を宣言する。

昭和58年9月27日 調布市議会

**Chofu City Declaration
We Are a Peaceful, Nuclear-Free City**

Entire world peace is a shared desire of all humanity.
The arm's race between countries possessing nuclear weapons has intensified. The development of nuclear weapons and the creation of a new type of war are threatening the survival of humanity.
As the only country in the world that has experienced nuclear bombing twice, and based on the central principle of non-expansion, Japan must play a proactive role in eliminating nuclear weapons and preventing disarmament.
Accordingly, our city of Chofu, sharing the total implementation of the Three Non-Nuclear Principles, firmly endorses itself with great concern to be a peaceful nuclear-free city.

September 27, 1983
Chofu City Assembly

調布市民憲章

悠久の流れをたたえる多摩川、武蔵野の森に囲まれた白鳳
仏の深大寺、この自然と歴史に恵まれたまち調布にも急速
な都市化が自然の被覆と環境の悪化をもたらしています。
但久の「和」を誇る私たち市民は、この自然をよみがえらせ
お互いの生活を尊重し、私たちひとりの手で人間味
あふれる「新しいあると世界」をつくるため、この市民
憲章をめざす。

昭和51年3月25日

1 私たち市民は、
自然を破壊と汚染からまもり、
緑と清流と青空に恵まれたまちをつくります。

2 私たち市民は、つねに自己を奮発し、
個性的で活潑な文化をかなまちをつくります。

3 私たち市民は、
健康で快適な生活を目指し、あなたがい心で助けあい、
幸せからとりのこされる人のいないまちをつくります。

4 私たち市民は、
お互いに約束をまもり、公共の施設を大切にし、
社会意識の向上にこころみ、
さわやかなまちをつくります。

5 私たち市民は、
ひとりひとりを尊重し、
すすんでまちづくりに参加し、
市民中心のまちをつくります。

調布市国際交流平和都市宣言

世界には、たくさんの国があり
その国には、それぞれに人が生きている
赤ちゃんもいれば、お年寄りもいる
言葉や文化の違いはあっても
みんな仲良く生きてたいと思う
調布の人も、そういう人も
日本の人も、そういう人も
いわく、私たちは世界にとびたつ
いわく、私たちは世界の人を恵める
地球上には、たくさんの人人が生きている
みんな平和に生きたいと思う
さうとそうなる、さうでさると
私たちは、宣言する。

昭和2年3月23日 調布市

**Declaration of Chofu City,
An international and peaceful city**

There are lots of countries in the world in which many people live.
There are people of all ages from babies to seniors.
Although we have differences of language and culture,
All people hope to be good friends and to live in peace.
Regardless of whether they are
People of Japan or not,
We now emphasize the world to promote mutual understanding.
We now wish the peace from all over the world.
Many people live on the Earth.
Everyone wants to live in peace.
We hope the peace of the world. The world will come to pass.
Everyone wants to live in peace.
March 23, 1990 Chofu City

その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちようふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちようふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配布するとともに、公共施設に配架しています。



戦争体験映像等記録

戦争体験者に自身の戦争体験を語っていただき、その様子を映像に記録したDVDを作製し、図書館、市内小中学校等に配布しています。

令和元年度は、ちようふピースメッセンジャー2019による市特別職への報告会の様子も併せて収録しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。基金の原資は、市の予算による積立や、皆様からお寄せいただいた寄付金などです。

平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちようふ」の作成、「広島平和派遣事業」等があります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。

【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139



ちようふピースメッセンジャー2019 原爆ドーム前

国際交流平和基金のHPはこちら



おわりに

「令和元年度調布市中学生広島平和派遣報告書」をご覧いただきありがとうございます

した。

令和元年度の広島平和派遣事業では、平和記念公園や平和記念資料館だけではなく、臨時野戦病院となった似島も見学しました。派遣期間中は、現地の方に説明していただきながらの見学や、被爆体験者の講話を聞く等、学校では学ぶことができないことをたくさん教えていただき、ピースメッセンジャーにとって、とても有意義な時間になったことだと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが実際に広島市へ行き、見て、聞いて、学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、派遣を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

戦争を知らない世代が増加していく中、悲惨な戦争を風化させることなく、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施してまいります。

協力

- ・NPO法人ちようふこどもネット
- ・調布市原爆被害者の会 河野 良彦 様
- ・広島平和記念資料館 被爆体験証言者 國分 良徳 様
- ・広島市観光ボランティアガイド 森 幹男 様
- ・広島市似島臨海少年自然の家 重末 貴文 様

参考資料

- ・広島市公式ホームページ
- ・広島広域観光情報サイト「ひろたび」ホームページ
- ・平和首長会議ホームページ
- ・広島市似島臨海少年自然の家 発行
平和学習資料～似島と戦争～

表紙について

似島(にのしま) 広島県広島市

広島港から約3km。戦時中は検疫所として使用された。

原爆投下後は、臨時野戦病院となり広島市内からたくさんの負傷者が運ばれ、多くの方が亡くなった。

現在は林海学校の利用の他、戦争の遺跡を巡る学習の場として利用されている。



刊行物番号

2019-270

令和元年度調布市中学生広島平和派遣報告書

発行日:令和2年3月

発行:調布市

編集:生活文化スポーツ部文化生涯学習課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話:042-481-7139(直通)

FAX:042-481-6881

E-mail:bunsin@w2.city.chofu.tokyo.jp
